

リアホナ



表紙の記事——
コロンビアで平安を見いだす
34ページ

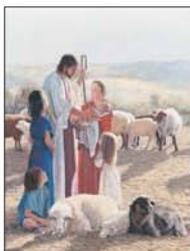
新しい使徒たちを知る
8ページ, 14ページ

復活祭の話を紹介する
「フレンド」10ページ

リアホナ



表紙
写真/マービン・K・ガードナー



「フレンド」表紙
絵/シェリー・リン・ボイヤードーティ



「ラベルが語ること」
「フレンド」2ページを見ましょう

一般

- 2 大管長会メッセージ——キリストに対する証
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 8 ディーター・F・ワークトドルフ長老
——新たな地平線へ ジェフリー・R・ホルランド
- 14 デビッド・A・ベドナー長老
——主の強さの中で前進する ヘンリー・B・アイリング
- 25 家庭訪問メッセージ——扶助協会という組織を喜びとする
- 26 いざ救いの日を楽しまん
- 32 祭司定員会——管理監督会へのインタビュー
- 34 コロンビアの聖徒たち——強さの模範 マービン・K・ガードナー
- 48 読者からの便り

「祭司定員会」
32ページ参照

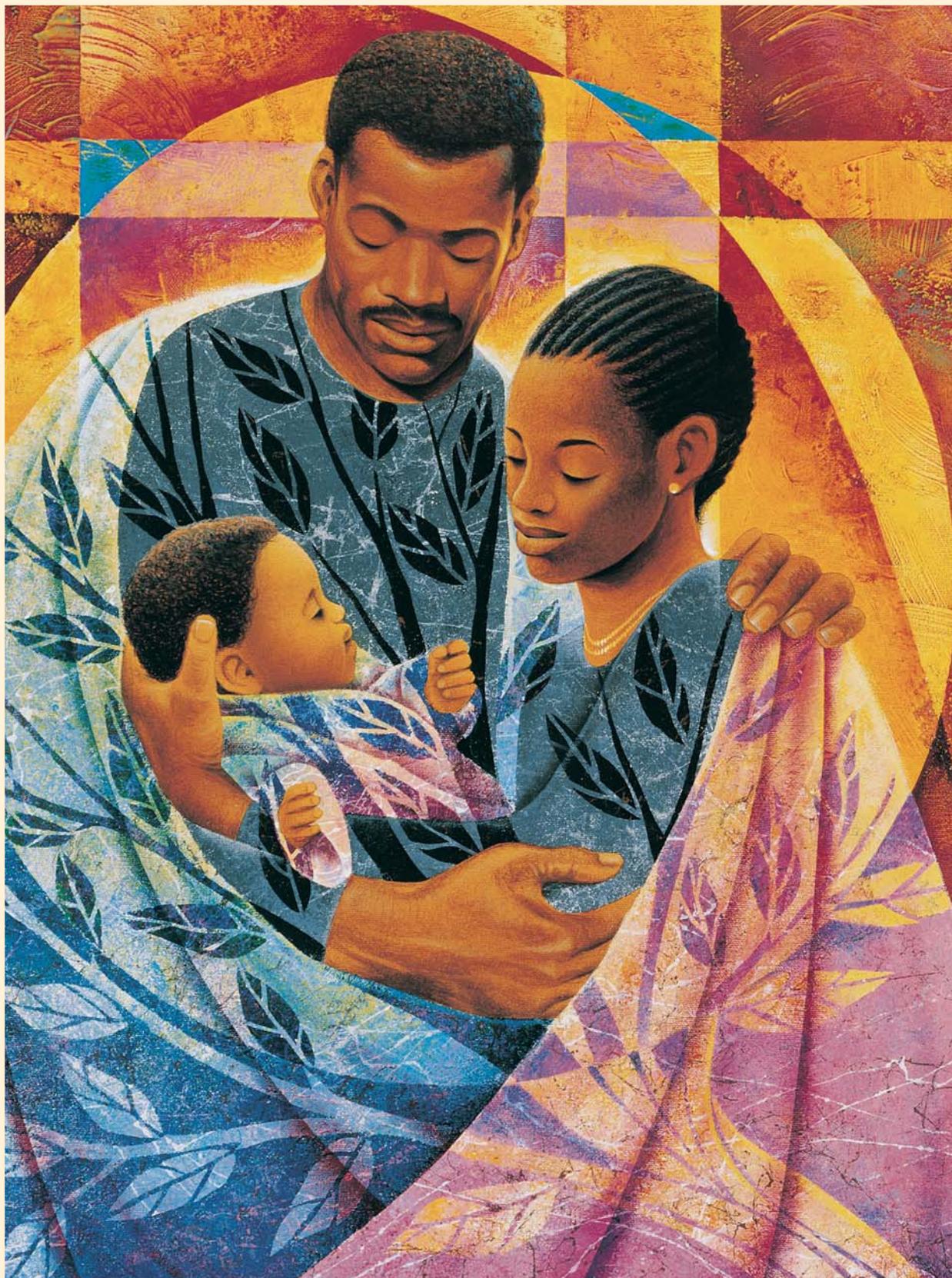
青少年

- 20 回復に先立つ出来事 シャンナ・バトラー
- 24 ポスター——あなたを傷つける音楽もあります
- 31 チャレンジに立ち向かう祭司 マイケル・チップマン
- 42 羊が売られた日 ジュリー・A・マスターズ
- 44 神殿を眺めるのが好きです アダム・C・オルソン
- 47 短いメッセージ
日曜日を神聖に保つ ルイス・アリエル・ホセ
月曜日が楽しみ オレアジュバ・オヒワブコラ

フレンド

- F2 預言者の声——ラベルが語ること 第一副管長 トーマス・S・モンソン
- F4 分かち合いの時間——イエス・キリストはわたしのすくいぬし マーガレット・リファース
- F6 小さなお友だちへ 神の光受け
- F8 デビッド・O・マッケイだいかんちょうのしょうがいから
——デビッドとエマ・レイ
- F10 わたしたちが喜ぶ理由——復活祭のためのプログラム
ロンダ・ギブ・ヒンリクセン
- F13 イエス・キリストをおぼえる
- F14 助け出されて トム・ルールストーン
- F16 イエスのように——暴力をふるわない
グイド・アロン・ロメロ・デュアルテ





渡手は禁じられています

「心安らぐひととき」 キース・マレット画

「両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。」

(「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン,
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, ラッセ
ル・M・ネルソン, ダリン・H・オクス, M・ラッセル・バラ
ード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバ
ート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイ
リング, ディーター・F・ウークトドルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ, W・ロルフ・カー

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

企画編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

グラフィックディレクター:アラン・R・ロイボグ

機関誌編集ディレクター:リチャード・M・ロムニー

編集主幹:マービン・K・ガードナー

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・バレット, シャナ・バト
ラー, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリオン・ポーター・
ガートン, ジェニファー・L・グリーンウッド, R・バル・ジョンソン, キャ
リー・カステル, メルビン・リービッド, サリー・J・オデカーク, アダム・
C・オーン, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・
サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリ, ジャネット・トーマス,
ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワートル, キンバリー・ウェッブ, モ
ニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カフサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ヒーターズ

デザイン・制作スタッフ:ケリー・アレンプラット, ハワード・G・ブラウン,
トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・
ハワード, デニース・カービー, タッド・R・ビーターソン, ランドール・J・
ピクストン, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリ
スト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 2,400円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール:cur-liahona-imag@dschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出る言葉「羅針針」または「指示器」の意)は、以下
の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, クラ
イナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロ
アチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セ
ブア語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, テ
ンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ルウウェー語, ハイチ語, ハンガリー語,
フージー語, フィンランド語, フランス語, フルガリア語, ベトナム語, ポーランド
語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リト
ニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)
©2005 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭におい
て臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料
に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがありま
す。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——
cor-intellectualproperty@dschurch.org にご連絡ください。

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原語—International Magazines March 2005.

Japanese. 25983 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で
掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックして
ください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

March 2005 no. 3 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is
published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East
North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is \$10.00 per
year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt
Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice
required for change of address. Include address label from a recent issue; old
and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions
and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription
help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American
Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information:
Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

「リアホナ」の活用法

家庭の夕べのための アイデア



「回復に先立つ出来事」

20ページ——記事中の年表に記された出来事について話してください。これらは、福音が地上に回復されるために、必要な出来事であったことを説明してください。そして、自分たちの住んでいる国や町で福音が宣べ伝えられるために、どのようなことが先に起きなければならなかったか家族に尋ねてください。主は家族や先祖に福音を伝えるために、どのように道を備えられましたか。最後に、次のことを深く考えるよう家族に勧めてください。主はわたしたち一人一人が福音を受け入れるよう備えるために、何をしてくださいましたか。

「コロンビアの聖徒たち——強さの模範」

34ページ——家族に、現在直面している問題について話してもらってください。それらとコロンビアの聖徒たちの問題とを比較してください。コロンビアの聖徒たちが問題や試練に対処している方法を、あなたの家族が一つか二つ応用するとしたらどうでしょうか。

「神殿を眺めるのが好きです」

44ページ——記事中の写真を見せてください。あなたが記事を朗読し、家族にヒロヌイとメリラニが神殿に行くのが好きな理由について注意して聞いてもらってください。神殿参入やその準備をするときに受けた祝福について話してください。もし可能なら、家族一緒に神殿に行くことについて考えてください。

「神の光受け」

F6ページ——家族に電球や太陽の絵を描いてもらい、その絵に家族全員の名前を書くように言ってください。一緒にこの記事を読み、スーザン・W・タナー姉妹の人生の中で、お父さんとお母さんがどのように「光」であったか考えてください。家族や人々のために光となるにはどうしたらよいか話し合ってください。

「わたしたちが喜ぶ理由——復活祭のためのプログラム」

F10ページ——復活祭について感じていることを分かち合うように勧めてください。プログラムのナレーターの言葉を、家族全員で順番に読んでください。指示されている絵や歌を用いてください。救い主の贖いの犠牲について証してください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略	
あかし証	2, F4, F6
あかし証	初等協会
あかし証	2, 42, F10
あかし証	自立
安息日	47
安息日	神権
安息日	31, 32
イエス・キリスト	
イエス・キリスト	信仰
イエス・キリスト	F6
イエス・キリスト	2, 42, F2, F4,
イエス・キリスト	神殿と神殿活動
イエス・キリスト	F10, F13, F14
イエス・キリスト	救いの計画
イエス・キリスト	F14
ウークトドルフ, ディーター	F
ウークトドルフ, ディーター	8
ウークトドルフ, ディーター	34, 44
教えること	1
教えること	タヒチ
教えること	44
音楽	24
音楽	定員会
音楽	31, 32
改革	20
改革	標準
改革	24
回復	20, 25
回復	復活
回復	2, F10
家族	F6, F8
家族	復活祭
家族	2, 42, F10
家庭の夕べ	1, 47
家庭の夕べ	扶助協会
家庭の夕べ	25, 26
家庭訪問	25
家庭訪問	平安
家庭訪問	34
教会歴史	26
教会歴史	ベドナー, デビッド・A
教会歴史	14
悔い改め	F14
悔い改め	ホームティーチング
悔い改め	7
謙遜	F2
謙遜	奉仕
謙遜	42
コロンビア	34
コロンビア	暴力
コロンビア	F16
裁き	F2
裁き	マックイ, デビッド・O
裁き	F8
使徒	8, 14
使徒	預言者
使徒	F4, F8



あかし キリストに対する証

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

わ たしたち一人一人は、イエスがキリストであられることに関して、自分自身の証を受けなければなりません。人から借りることはできません。贖い主^{あがな}に対する証は、霊的な賜物として神聖な源から得られます。わたしはそう信じています。パプテスマのヨハネが述べたように、「人は天から与えられなければ、何ものも受けることはできない」のです。¹ 天から送られるそのような証は、たとえ混乱と誘惑の世の中で生活していても、心に神聖な安らぎと強さを与えてくれます。また、キリストの弟子になるための力を与えてくれます。わたしはそのような証を探し求めてきた者の一人として、主イエス・キリストの実在についてもたらされた、わたし自身の確固とした証をお伝えします。

新約聖書の証

主の弟子であると公言する人はだれでも、最初の使徒たちの召しについて、また主の神性に対する彼らの証について、特別な感謝の気持ちを抱かずにはられません。ペテロから始めましょう。キリストの神性について知るうえで使徒ペテロほど恵まれた状況にあった人はいません。彼の話は信頼できます。その場にいたからです。ペテロはこう言っています。「わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを、あなたがたに知らせた時、わたしたちは、巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだからである。」²

ヨハネによる福音書には、ほかの使徒たちの証が記されています。

「その翌日、ヨハネはまたふたりの弟子たちと一緒に立っていたが、

イエスが歩いておられるのに目をとめて言った、『見よ、神の小羊。』……

ヨハネから聞いて、イエスについて行ったふたりのうちのひとは、シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。

彼はまず自分の兄弟シモンに出会って言った、『わたしたちはメシヤ（訳せば、キリスト）にいま出会った。』³

ペテロはしばしば、救い主の神性について証しました。主の弟子たちの多くが主のもとから去って行ったとき、イエスは十二使徒に「あなたがたも去ろうとするのか」と言われました。

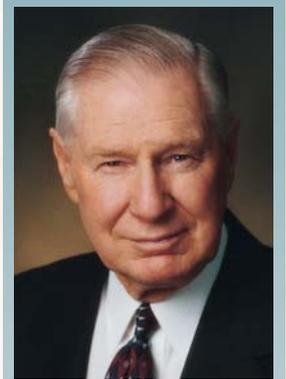
「シモン・ペテロが答えた、『主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言^{ことば}をもっているのはあなたです。

わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。』⁴

救い主の時代に生きていた女性たちも、主の神性について証を受けました。イエスがマルタとマリヤの家に着かれたとき、二人の弟ラザロが亡くなってから4日たっていました。

「マルタはイエスに言った、『主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう。……』

イエスはマルタに言われた、『あなたの兄弟はよみがえるであろう。』



あかし
そのような証を
探し求めてきた者の
一人として、
主イエス・キリストの
実在について
もたらされた、
わたし自身の確固とした
証をお伝えします。

マルタは言った、『終りの日のよみがえりの時よみがえることは、存じています。』

イエスは彼女に言われた、『わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。』

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか。』

マルタはイエスに言った、『主よ、信じます。あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じております。』……

〔イエスは〕大声で『ラザロよ、出てきなさい』と呼ばれた。

すると、死人は手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきた。イエスは人々に言われた、『彼をほどこいてやって、帰らせなさい。』

マリヤのところに来て、イエスのなさったことを見た多くのユダヤ人たちは、イエスを信じた。』⁵

最も大いなる証

復活祭の季節を迎えようとしていますが、主のはりつけと復活の物語に見られる証ほど、イエス・キリストに対する大いなる証はありません。主の生涯の最後の週は、エルサレムから見てオリブ山の向こう側の斜面にあるベタニヤという小さな町で始まります。救い主は山の上を回り、ベテパゲを通って行かれました。水曜日に関する記録は何も残されていません。木曜日の夜は、^{すぎこし}過越の準備をしました。

「時間になったので、イエスは食卓につかれ、使徒たちも共に席についた。……

そして杯を取り、感謝して言われた、『これを取って、互に分けて飲め。』

あなたがたに言うが、今からのち神の国が来るまでは、わたしはぶどうの実から造ったものを、いっさい飲まない。』⁶

それからイエスは、やがて起こる裏切りについて告げられました。主はこう言われました。『『わたしが一きれの食物をひたして与える者が、それである。』そして、一きれの食物をひたしてとり上げ、シモンの子イスカリオテのユダにお与えになった。』

この一きれの食物を受けるやいなや、サタンがユダにはいった。そこでイエスは彼に言われた、『しようとしていることを、今すぐするがよい。』

席を共にしていた者のうち、なぜユダにこう言われたのか、わかっていた者はひとりもなかった。』⁷

それに続いて^{せいさん}聖餐が行われました。

「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、『取れ、これはわたしのからだである。』

また杯を取り、感謝して彼らに与えられると、一同はその杯から飲んだ。

イエスはまた言われた、『これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。』⁸

彼らは賛美歌を歌った後、オリブ山に向かって出かけ、ケデロンの谷の向こうへ下って行きました。イエスはオリブ山へ登る坂に差しかかると、ペテロとゼベダイの二人の息子を連れて行かれました。それから声を上げて言われました。『わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、わたしと一緒に目をさまさない。』

そして少し進んで行き、うつぶしになり、祈って言われた、『わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにはなく、みこころのままになさって下さい。』……

また2度目に行って、祈って言われた、『わが父よ、この杯を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行われますように。』⁹

「イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。』¹⁰

さらに詳しい記述が教義と聖約にあります。「その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。』¹¹ 主の苦しみは、「つらい」「激しい」ものとして描写されています。¹²

ユダはどこに行けば救い主に会えるか知っていました。主は弟子たちと度々そこに行かれたことがあるからです。救い主は、一隊の兵卒と下役たちがたいまつや明かり、武器を持って、門から入って来るのを御覧になれたことでしょう。また、彼らが丘を下ってケデロンの谷底を流れる小川を渡り、園に入るときの、主はよろいの立てる音を耳にし、恐らく足音が近づいて来るのを聞かれたことでしょう。

「しかしイエスは、自分の身に起ろうとすることをことごとく承知しておられ、進み出て彼らに言われた、『だれを捜しているのか。』

「イエスはパンを取り、祝福してこれをさき……また杯を取り……言われた、『これは、多くの人のために流すわたしの契約の血である。』」

彼らは『ナザレのイエスを』と答えた。イエスは彼らに言われた、『わたしが、それである。』イエスを裏切ったユダも、彼らと一緒に立っていた。

イエスが彼らに『わたしが、それである』と言われたとき、彼らはうしろに引きさがって地に倒れた。〔言うまでもなく、彼らはその場の空気に圧倒されていました。〕

そこでまた彼らに、『だれを捜しているのか』とお尋ねになると、彼らは『ナザレのイエスを』と言った。

イエスは答えられた、『わたしがそれであると、言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人たちを去らせてもらいたい。』……

それから一隊の兵卒やその千卒長やユダヤ人の下役どもが、イエスを捕え、縛りあげ[た。]¹³

イエスの試練

最初の質問を受けて、イエスはこのように答えられました。「わたしはこの世に対して公然と語ってきた。すべてのユダヤ人が集まる会堂や宮で、いつも教えていた。何事も隠れて語ったことはない。」¹⁴ カヤパと全議会の前で公判に先立つ審問が行われました。そのときの様子が次のように記録されています。「多くの者がイエスに対して偽証を立てたが、その証言が合わなかった……。」¹⁵ 法廷では珍しいことではありません。

「しかし、イエスは黙っておられた。そこで大祭司は言っ

た、『あなたは神の子キリストなのかどうか、生ける神に誓ってわれわれに答えよ。』¹⁶

「イエスは言われた、『わたしがそれである。あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう。』

すると、大祭司はその衣を引き裂いて言った、『どうして、これ以上、証人の必要があるろう。』

あなたがたはこのけがし言を聞いた。あなたがたの意見はどうか。』すると、彼らは皆、イエスを死に当るものと断定した。¹⁷

正式な裁判と罪の宣告については、簡単に記録されています。罪状は神に対する冒瀆^{ぼうとく}でした。

「『あなたがキリストなら、そう言ってもらいたい。』イエスは言われた、『わたしが言っても、あなたがたは信じないだろう。』

また、わたしがたずねても、答えないだろう。』

しかし、人の子は今からのち、全能の神の右に座するであろう。』

彼らは言った、『では、あなたは神の子なのか。』イエスは言われた、『あなたがたの言うとおりでである。』

すると彼らは言った、『これ以上、なんの証拠があるか。われわれは直接彼の口から聞いたのだから。』¹⁸

最初にピラトの前に連れて行かれたとき、主は異なる罪状、すなわち暴動の罪で告発されました。

「ピラトはイエスに尋ねた、『あなたがユダヤ人の王であるか。』

イエスは、『そのとおりでである』とお答えになった。¹⁹

「そこでピラトは祭司長たちと群衆とにむかって言った、『わたしはこの人になんの罪もみとめない。』²⁰

この後、イエスはヘロデの前に連れて行かれました。「ヘロデはイエスを見て非常に喜んだ。それは、かねてイエスのことを聞いていたので、会って見たいと長いあいだ思っていたし、またイエスが何か奇跡を行うのを見たいと望んでいたからである。

それで、いろいろと質問を試みたが、イエスは何もお答えにならなかった。

祭司長たちと律法学者たちとは立って、激しい語調でイエスを訴えた。



またヘロデはその兵卒どもと一緒にあって、イエスを侮辱したり嘲弄したりしたあげく、はなやかな着物を着せてピラトへ送りかえした。

ヘロデとピラトとは以前は互に敵視していたが、この日に親しい仲になった。」²¹

ピラトの前に再び主が連れて来られたとき、ユダヤを支配するローマ人の総督は、このときもイエスに何の罪も見いだすことができませんでした。それから兵士たちはイエスを鞭打ち、あざけりました。「そしてその上着をぬがせて、赤い外套を着せ、

また、いばらで冠を編んでその頭にかぶらせ、右の手には葦の棒を持たせ、それからその前にひざまずき、嘲弄して、『ユダヤ人の王、ばんざい』と言った。」²²

イエスのはりつけ

クレネ人のシモンは、イエスの十字架を無理やり負わされました。²³ このときまでに、彼らは紫の外套をはぎ取って元の上着を着せ、イエスを十字架につけるためにゴルゴタ、すなわち「されこうべの場」という所に引き連れて行きました。二人の強盗がイエスと一緒に、一人は右に、一人は左に、十字架につけられました。そしてイエスの頭の上の方には、「これはユダヤ人の王イエス」と書いた罪状書きが掲げられました。²⁴

「そのとき、イエスは言われた、『父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。』」²⁵

「彼らはイエスを十字架につけてから、くじを引いて、その着物を分け(これは、『彼らは互にわたしの衣服を分け、わたしの着物をくじ引にする』という預言者の言葉を成就するためである)、

そこにすわってイエスの番をしていた。」²⁶

昼の12時から地上の全面が暗くなって、3時に及びました。イエスはアラム語で「大声で叫んで、『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』と言われた。それは『わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか』という意味である。」²⁷

「そのとき、イエスは声高く叫んで言われた、『父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。』こう言ってついに息を引きとられた。」²⁸

そばに立っていたローマ人の兵士たちは、小さな証を得ました。



「復活」ハリー・アンダーソン画

「イエスは彼女に言われた、『わたしにさわってはいけない。わたしは、まだ父のみもとに上っていないのだから。ただ、わたしの兄弟たちの所に行って、『わたしは、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く』と、彼らに伝えなさい。』」

「百卒長、および彼と一緒にイエスの番をしていた人々は、地震や、いろいろのできごとを見て非常に恐れ、『まことに、この人は神の子であった』と言った。」²⁹

ヨハネは、兵士たちがイエスのわき腹を突き刺して、すでに亡くなっておられるのを見て、安息日の前に死に至らせるという習慣に従って「その足を折ることはしなかった」と記録しています。³⁰ 主の弟子であるアリマタヤのヨセフは、ピラトのところへ行って、イエスの体を引き取りたいと願いました。³¹ そこでピラトは許可を与え

ました。ニコデモも、没薬と沈香とを混ぜたものを100斤ほど持って来ました。³² 墓には番人が置かれていました。³³

「すると、大きな地震が起きた。それは主の使が天から下って、そこにきて石をわきへころがし、その上にすわったからである。

その姿はいなずまのように輝き、その衣は雪のように真白であった。

見張りをしていた人たちは、恐ろしさの余り震えあがって、死人のようになった。」³⁴

イエスの復活

それは日曜日のことでした。ユダヤ人の安息日は終わっていました。夜明け前に、マグダラのマリヤ、ヨハンナ、ヤコブ

の母マリヤなど数人の女性たちが、墓にやって来ました。すると石が墓から転がしてあり、主イエスの体が見当たりませんでした。

「そのため途方にくれていると、見よ、輝いた衣を着たふたりの者が、彼らに現れた。

女たちは驚き恐れて、顔を地に伏せていると、このふたりの者が言った、『あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。

そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出さない。』³⁵

そこで女たちは急いで戻り、この出来事をすべて11人の使徒たちに伝えました。ペテロとヨハネは走って行き、墓が空になっているのを自分の目で確かめました。二人は、亜麻布がそこに置いてあり、イエスの頭に巻いてあった布が離れた場所にくるめてあるのを見ました。³⁶

イエスはその後、マグダラのマリヤに御姿を現されました。「イエスは女に言われた、『女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。』マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、『もしあなたが、あのかたを移したのであれば、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります。』

イエスは彼女に『マリヤよ』と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかってヘブル語で『ラボニ』と言った。それは、先生という意味である。

イエスは彼女に言われた、『わたしにさわってはいけない。わたしは、まだ父のみもとに上っていないのだから。ただ、わたしの兄弟たちの所に行き、『わたしは、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く』と、彼らに伝えなさい。』³⁷

復活されたイエスは、エマオへ向かう道で二人の弟子に、エルサレムでシモン・ペテロに、またほかの10人の使徒たちおよび彼らと一緒にいた人々に、それぞれ御姿を現されました。³⁸

わたしは主の特別な証人として、これらの出来事について、また主なる救い主、贖い主としてのイエスの神聖な召しについて、わたし自身の確固とした証をお伝えします。主が生きておられ、わたしたちを愛しておられ、この業が主の神聖な業であることを証します。主の言葉が永遠の命の言葉であることを証します。この教会を通して、主の業と栄光が、すなわち忠実で従順な人々の不死不滅と永遠の命をもたらす業³⁹が達成されることを証します。■

注

1. ヨハネ3:27
2. ペテロ1:16
3. ヨハネ1:35-36, 40-41
4. ヨハネ6:67-69
5. ヨハネ11:21, 23-27, 43-45
6. ルカ22:14, 17-18
7. ヨハネ13:26-28
8. マルコ14:22-24
9. マタイ26:38-39, 42
10. ルカ22:44
11. 教義と聖約19:18
12. 教義と聖約19:15参照
13. ヨハネ18:4-8, 12
14. ヨハネ18:20
15. マルコ14:56
16. マタイ26:63
17. マルコ14:62-64
18. ルカ22:67-71
19. マルコ15:2
20. ルカ23:4
21. ルカ23:8-12
22. マタイ27:28-29
23. マタイ27:32;ルカ23:26参照
24. マタイ27:31, 33, 37-38参照
25. ルカ23:34
26. 欽定訳マタイ27:35-36から和訳
27. マタイ27:46
28. ルカ23:46
29. マタイ27:54
30. ヨハネ19:31-36参照
31. マタイ27:57-58参照
32. ヨハネ19:39参照
33. マタイ27:62-66参照
34. マタイ28:2-4
35. ルカ24:4-6
36. ヨハネ20:3-7参照
37. ヨハネ20:15-17
38. ルカ24:13-48;ヨハネ20:19-28参照
39. モーセ1:39参照

ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 最初の3つの文を読み、キリストに対する証を受けることについて、ファウスト副管長が述べている事柄について話し合う。弟子たちが証を受けたときの物語を一つまたは複数紹介し、それについて話し合う。最後の段落を一緒に読み、救い主に対するあなた自身の証を伝える。

2. ファウスト副管長が復活祭について述べている事柄について話し合う(「最も大いなる証」の項を参照)。主のはりつけと復活に焦点を当てることにより、どのように証を深めることができるだろうか。復活祭の季節に、救い主を思い起こす有意義な方法を計画するように家族を励ます。

ディーター・F・ ウークトドルフ長老

新たな地平線へ

十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド

19 73年12月17日、ドイツ、フランクフルトにあるルフトハンザドイツ航空の社長は、驚くべき報告を受けました。それはルフトハンザ737のジェット機がイタリアのローマで5人のテロリストにハイジャックされ、人質を乗せたままギリシャのアテネに向かっているという内容のものでした。テロリストはローマで乗客32人を殺し、人質にした1人を機内で撃って、瀕死の状態のままアテネ空港の滑走路に放り出しました。乗客が恐怖に震える中、いつ何をするか分からないハイジャック犯たちは、パイロットと副操縦士の頭に銃を突きつけ、ローマからベイルート、アテネ、ダマスカス、クウェートへ飛ぶようにと奇怪な要求をしました。

ルフトハンザ航空の社長は、すぐに737飛行機隊のチーフパイロットに指示を出しました。当時33歳だったディーター・F・ウークトドルフに、少数の救急隊員を連れて、テロリストの思いのままさまようハイジャック機を追跡するよう命じたのです。ディーター・ウークトドルフは、あらゆる機会をとらえて、飛行機とパイロットと乗客の解放を求めて犯人と交渉



し、任務完了時には、ハイジャック機であるルフトハンザ737をフランクフルトの本社まで操縦することになっていました。

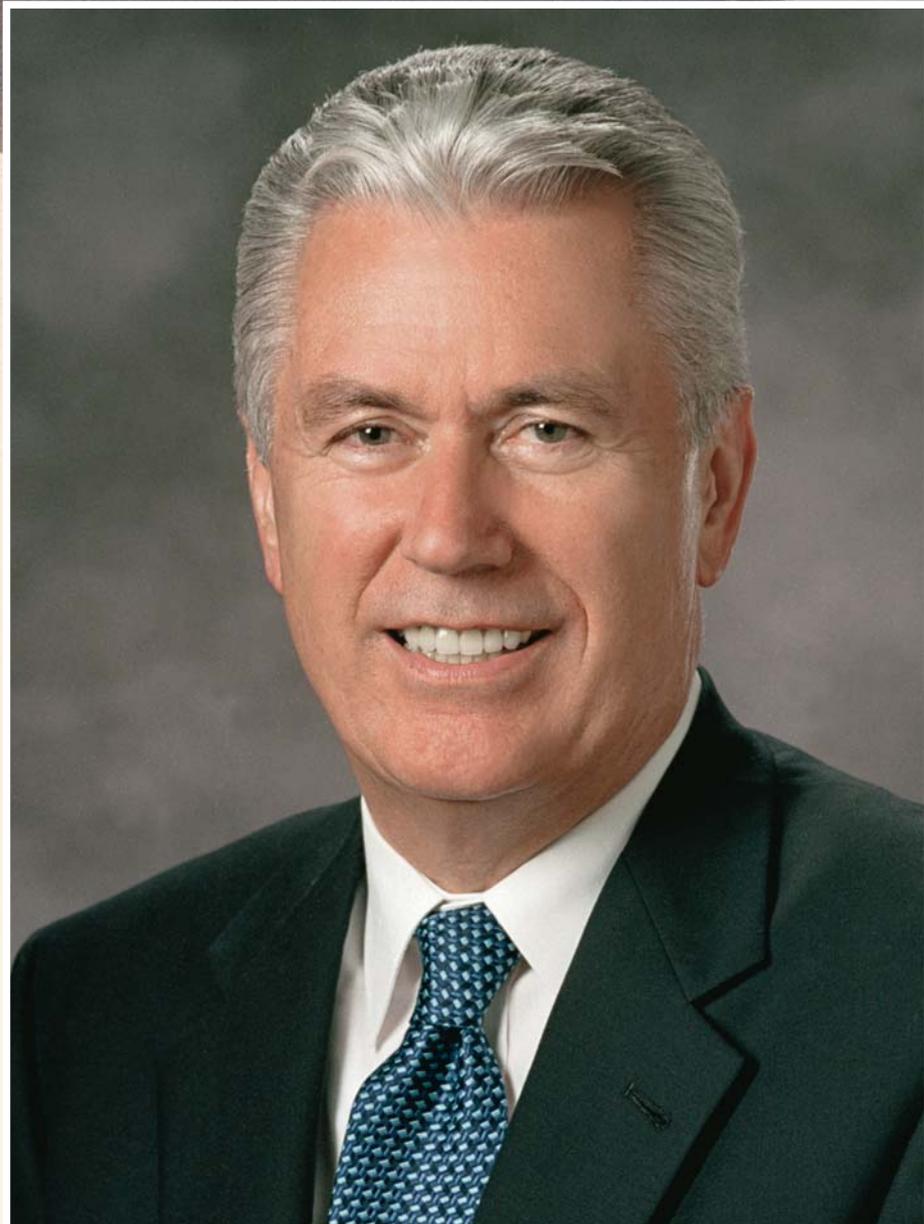
ウークトドルフはこれまでも、個人的に、また職務上様々な使命を達成してきました。このときも、幸いなことにそれ以上の死傷者は出ず、ディーター・ウークトドルフは使命を達成したのです。本人はまだ気づいていませんでしたが、この出来事はその後受けることになるより大切な使命を表していました。

試練に立ち向かうために備えられる

2004年10月に、新たに十二使徒定員会に召されたディーター・フリードリック・ウークトドルフは、生涯を通して試練に立ち向かい、責任を担うために備えられてきました。ディーターは1940年11月6日に、チェコスロバキアのマリッシュ・オストラウで生まれ、どこへ行っても戦争の悲惨さと、罪なき人々が他人の破滅的な決断により苦難を強いられる姿を目の当たりにしてきました。父親のカール・アルベルト・ウークトドルフはドイツ軍に徴集され、すぐさま妻と4人の子供から引き離されました。末っ子でまだ幼かったディーターには、父親は不本意ながらもどこか別の場所にて、母親のヒルデガルド・E・オベルト・ウークトドルフが、戦火のヨーロッパで勇敢にも幼い子供たちを養っていたということしか分かりませんでした。

連合軍が西側で成功を収める一方、東側ではスターリンの軍隊が不吉にも





**左ページ(上から)——ドイツ空軍で訓練を受ける
20歳のディーター・F・ウークトドルフ。
2歳のディーター(右から2番目)、姉のクリステル(右)と
友達二人と一緒に。
12歳のころ。お気に入りの本を手に。
上——十二使徒定員会のディーター・F・ウークトドルフ長老。**

進展を見せていました。ヒルデガルド・ウークトドルフはできるかぎり西部戦線に近づこうとしました。そこで家族のわずかな所有物をすべて残し、幼い子供たちを連れて、ドイツのツビッカウへ向かいました。幸いにも夫は無事生還し、ツ

ビッカウで家族と合流しました。夫はナチスと共産主義体制の両方に真っ向から反対していました。ナチスは崩壊したものの、戦後のドイツ分断に伴い、生活は共産主義体制に統制されることになりました。カールの政治的立場のために、家族の命は危険にさらされ、そのため再び7年前と同じように、所有していた財産すべてを後に、危険を承知で新たな安息の地、ドイツのフランクフルトに向かいました。

ウークトドルフ長老は当時のことをこう語っています。「わたしたちは避難民で、先行きは分かりませんでした。……わたしは空襲で大破した家屋を遊び場とし、敗戦が残した焼け跡の中で、あの恐ろしい第二次世界大戦の間に自分の国がほかの多くの国にひどい苦痛を与えたことを実感しながら成長しました。」¹ この一家が絶望と恐怖に押しつぶされても不思議ではありませんでした。

しかし、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が別の国際紛争の際に述べたように、「戦争というつづれ織り」の中にも「銀色の糸」を見つけることができるのです。² ウークトドルフ一家にとってもそのとおりになりました。ツビッカウに住んでいたとき、イエス・キリストの福音を見いだしました。ウークトドルフ長老は十二使徒定員会に召されたときの最初の説教で、福音という贈り物への感謝を述べました。

「第二次世界大戦後のある日、祖母が食料を買うために列に並んでいると、身寄りのない高齢の姉妹が…
…聖餐会に誘ってくれました。祖母と両親はその招きを受け入れました。3人は教会に行き、御霊を感じ、会員の親切に感動し、回復の賛美歌に心を高められました。……霊的な感受性の強い祖母、心を開いて福音を受け入れた両親、そして賢明な白髪の独身の姉妹に心から感謝しています。この姉妹は勇気をもって手を差し伸べ、『きてごらんさい、そうしたらわかるだろう』(ヨハネ1:39参照)という救い主の模範に従ったのです。」³

ディーターの空へのあこがれは、10代という若いころから募っていきました。14歳ぐらいになると、自転車でフランクフルト空港に行き、畏敬の念をもって飛行機を見詰めています。

た。時々空港で働く人の特別な計らいにより、コックピットをのぞかせてもらい、いつの日にか自由な空に飛び立つことを夢見たのでした。そのときは、自分がいつしか世界で最も知名度の高い旅客機と言えるボーイング747をはじめ、幾種もの主要な航空機の操縦を修得するようになるとは思いませんでした。ひいては、少年のころ通ったその空港のゲートをくぐる民間パイロットとして、恐らく最も知名度の高い、名誉ある人物になるとは、当時は思いも寄せませんでした。

ディーターは18歳で工学教育を受け、ドイツ空軍で6年過ごしました。その後、ドイツと合衆国政府間の交換留学制度で、テキサス州ビッグスプリングの戦闘機パイロット養成学校に入学したディーターは、アメリカ空軍でも飛行許可証を取得しました。ワークトドルフ長老の先輩によると、養成学校での長老の最大の業績は、クラスの優秀な学生パイロットとして司令官賞を獲得したことでした。しかし、ワークトドルフ長老はいつもの謙虚な調子で、そこでのより大きな業績は、地元の支部の集会所建築を手助けしたことであると言います。それは職業的に重要なこの時期における最も大切な思い出となりました。成功に成功を重ねるワークトドルフ長老が、何年か後に合衆国に戻り、アリゾナ州グッドイヤーにあるルフトハンザ・パイロット養成校の校長、すなわちルフトハンザ社内における最も名誉ある養成職に就任したことは、何の不思議もないことでした。

1970年、ディーター・ワークトドルフは29歳でルフトハンザの機長になりました。その地位を得るにはもっと長い年月がかかると言われていました。そしてやや出世の早いこの航空界の鬼才は、737飛行機隊の隊長(1972年)、アリゾナ養成校の校長(1975年)、チーフパイロットおよび運航管理者(1980年)に就任し、ついに運航管理部の上席副社長(1982年)に就任しました。

次々に昇進し、責任が増えていく中、



ディーター・ワークトドルフはドイツ・フランクフルトステーキの会長に、その後ドイツ・マンハイムステーキの会長に召され、1994年にはついに中央幹部として七十人第二定員会に召されました。

ハリエット・ワークトドルフ

妻のハリエット抜きに、ディーターについて語ることはできません。古くからの友人で、教会の仲間であるハンノ・ルッチンはこう言います。「仕事で功績を上げ、教会で様々な召しに就いていますが、ディーターの人生における大きな成功は、すばらしい結婚にあります。それはハリエットに対するディーターのまったくの誠実さと、ハリエットのディーターに対する変わる事のない支持に表れています。」

「ハリエットは人生を照らす太陽です。」ワークトドルフ長老はほほえみながらそう語ります。

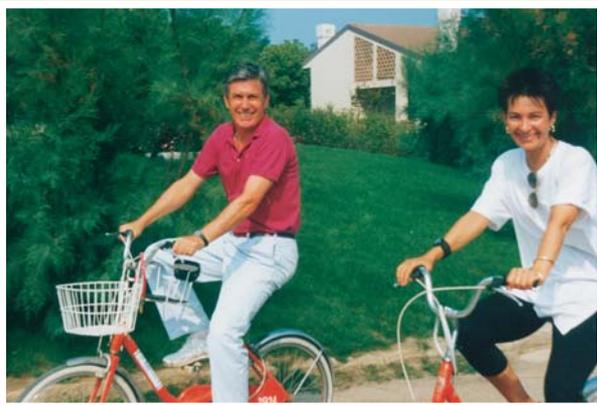
「ええ、でもたまには雷雨にもなりますよ」とハリエットは笑います。いつでも仲むつまじい二人とともにいるのは楽しいものです。

最終的にハリエット・ライヒを福音に導き、後にその最愛の人、ディーター・F・ワークトドルフとの出会いに導いたのは、たった1枚のチューインガムでした。終戦が間近なころ、4歳のハリエットがフランクフルトに住んでいたとき、道で擦れ違ったハンサムなアメリカ兵がハリエットに1枚のガムを差し出しました。ハリエットはためらいがちにガムを受け取り、その青年の親しみのこもった振る舞いと愛想のよい表情を決して忘れませんでした。およそ10年後、末日聖徒の宣教師がライヒ家にやって来ました。そして母親から中に入れないうに言われたにもかかわらず、ハリエットはドアを開けたのです。宣教師の顔に同じような優しさを見たハリエットは、子供のころに出会った兵士のことを思い出し、母親に懇願しました。「お母さん、お願い、ちょっとだけでいいから。」

宣教師は、特に読んでほしい聖句に印を付けたモルモン書を1冊置いて行きました。その晩、ハリエットの母親はモルモン書を読み始めました。(父親はほんの8か月前に亡くなっていました。)ハリエットは当時をこう振り返ります。「母が実際にどこを読んでいたのかは分かりませんが、母の顔を見ると、表情がみるみる変わっていくのに気づき



ました。」この小さな家族は、ほかの人々と同様、悲惨な戦争の余波の中で過ごしていました。夫を亡くしたばかりの母親は、若い娘二人を抱え、体調も気分も優れず、不幸でこれからどうなるのか分からないでいました。しかし、母親がモルモン書を読み進める様子をハリエットはこう語ります。「母の生活に喜びが戻ったのが見て取れました。母の目に光が戻り、心に希望



がわいてきたのが分かりました。」

宣教師は再びやって来て、尋ねました。「印を付けておいた聖句を読んでいただけましたか。」

「全部読みました。」ライヒ姉妹はそう答えました。「どうぞ入ってください。質問に答えてほしいのです。」

ハリエットと母親と妹は4週間後にバプテスマを受けました。

ワークトドルフ姉妹はこのように語ります。「その日から生活が変わりました。わたしたちは再び笑ったり、走り回ったりするようになり、家庭に幸せを見いだすようになったのです。すべてイエス・キリストの福音のおかげです。」

家庭におけるワークトドルフ家

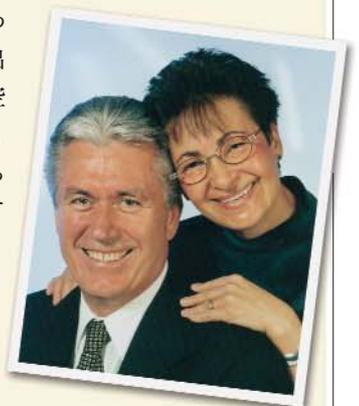
今は結婚しているワークトドルフ家の子供たち、ガイド・ワークトドルフとアンティエ・ワークトドルフ・エバンスは、素晴らしい子供時代を送ったと声をそろえます。アンティエはこう語

ります。「母はいつもわたしたちのために家にいてくれました。」母親は文字どおり一日も欠かさず自分たちを学校へ見送り、帰宅時には家にいてくれたと、子供たちは言います。さらに、父親がフライト、職場、教会から帰って来るまで、どんなに遅くならうと必ず起きて待っていました。アンティエは続けてこう言います。「父は非常に忙しい人でしたが、いつもわたしたちを第一に考えてくれていました。そして家にいるときは、母とわたしたちに100パーセント尽くしてくれました。母にとってはすべてが胸躍る経験であり、父は何でも楽しくする人でした。父はすべてをこれまでにない楽しい経験に変えてしまいました。スーパーマーケットに行くことですらそうです。子供にとっては最高に楽しい家族旅行にも連れて行ってくれました。ですから、わたしたち子供はいつも必ず胸躍る経験ができたのです。」

すべてが胸躍るすばらしい経験でしたが(子供たちと母親は、アマチュア写真家である父親が、アフリカでライオンに近づきすぎたと思っています)、アンティエはその中でもとりわけ、父親と静かに過ごしたときのことを思い出します。「父が時間がある度に見ていた星空を一緒に見上げたり、冬にそり滑りをしたり、ただポーチに腰かけたり、そんなときに父からいつも教わっていました。父は福音を愛していて、わたしたちも福音を愛せるようにいつも助けてくれました。」

ガイドはこう語ります。「父から説教された記憶はありません。ただいつもわたしに関心

左ページ(上から)——
**スイス・ベルン神殿
 近くに立つ、カール・
 ウークトドルフと
 妻ヒルデガルド。
 司令官賞を授与される
 ディーター・F・
 ウークトドルフ。
 ルフトハンザドイツ航空
 のパイロットとして。
 左——
 ウークトドルフ姉妹と
 ともに。
 休暇でイタリアに
 行ったとき。
 上——
 ウークトドルフ家族。
 下——
 ウークトドルフ長老と
 姉妹。**





を持ってきていました。二人きりで出かける時間があって、たいてい夕方散歩に行くことが多かったのですが、時には山にハイキングに行くこともありました。そうやって話すのが大好きでした。そしてそのようなときは必ず模範によって教えてくれました。父がステーキ会長るとき、よく父について遠くのワードや支部へ行きました。アロン神権を受けたときは、ホームティーチングの同僚にもなりました。そのようにして神権や責任について学びました。父から直接、一緒に力を合わせて働きながら教えてもらったのです。」

思いやり、忍耐、勇気

ウークトドルフ長老と働いたことのある人は、長老の指導者としての色々な資質を称賛します。しかし繰り返し語られるのは、その思いやりに満ちた性格と、誠実さ、忍耐力、そして教会と福音を擁護する勇気です。七十人名誉会員のディーナ・L・ラーセン長老は、ウークトドルフ長老が中央幹部に召され、地域会長会の副会長となったときに会長を務めていました。ラーセン長老はこう語ります。「わたしたちの地域は当時、西および中央ヨーロッパのほぼ全域を管轄しており、第二次世界大戦で痛手を受けていた国々ばかりでした。ディーターを知る人はすぐに彼を好きになりましたが、それでも最初の数か月、彼は自分を知らない人々のいる、いまだ戦争の悲惨なつめあとが消えない国々へ行って管理することをためらっているようでした。」

ラーセン長老はこう当時を振り返ります。「しかし心配は要りませんでした。ウークトドルフ長老は惜しみなく人々に愛を注ぎ、愛想がよく人から好かれやすいので、どこへ行っても抱き締められ、受け入れられました。福音はそのような状況で奇跡を起こします。ディーターの訪問先の教会員は、彼が謙遜で靈感にあふれ、献身的であるのと同じくらい、寛大で親切でした。」

ウークトドルフ長老が仕えたもう一人の地域会長は、七十人で現在ヨーロッパ東地域会長のデニス・B・ノイエンシュワン

グー長老です。「当初、ディーターは職業に就いたまま週末だけ教会のために奉仕するよう召された6人の中央幹部の一人でした。」長老は当時を振り返ってこう語ります。「ウークトドルフ長老にとってかなり負担の大きい責任でした。ルフトハンザ航空では管理職という大きな責任があり、そのうえチーフパイロットとして世界中を長距離飛行していたのです。」

地域会長会でウークトドルフ長老とともに仕えた七十人のニール・L・アンダーセン長老は、ウークトドルフ長老の働きと、逆境に直面したときに長老が示した勇気について思い出します。ウークトドルフ長老の働きによって、会員たちは成長し、正しい誇りを持つに至りました。アンダーセン長老は、ドイツ政府が認知度の低い宗教を厳重に取り締まろうとしたときの困難な状況を鮮明に覚えています。当初、対象宗派に末日聖徒イエス・キリスト教会も含まれていました。御業の発展を脅かすこの重大な出来事に対処するため、教会指導者は可能なかぎり最も毅然とした信頼の置けるドイツ人の代表をボンに送る必要がありました。それがディーター・F・ウークトドルフだったのです。彼の大胆で勇気ある説明は実に説得力があり、明確で、ルフトハンザ航空における評判が広く知れ渡り、高く評価されていたので、ディーター・ウークトドルフに面会を許可したドイツの役人たちは、不注意にも末日聖徒イエス・キリスト教会を対象宗派にしたことに幾らか呆然としていました。結局彼らはこう言いました。「あなたが末日聖徒であるならば、もうそれ以上の証拠は要りません。あなたの教会は今後このような対象リストに載ることはないでしょう。」

福音により強められ

ウークトドルフ長老の息子グイドは、生活の中で問題や困難が生じたときには、父親がよく言ったドイツ語のことわざを思い出します。「マン カンテ ズイッヒ ダーリュューベ エアゲン アーベ マン イスト ニッヒト フェアフリヒテット ダーツー (Man könnte sich darüber ärgern, aber man ist nicht verpflichtet dazu)」大まかに言うと、「動揺することもできる。しかし、そうする義務もない。」ディーター・ウークトドルフは、選択の自由と自制心、イエス・キリストの福音と神権の力があれば、環境の犠牲になることはないと感じています。悲惨な出来事は実際に起きます。ウークトドルフ長老の人生にも起きました。しかし、自分自身を主の手にゆだねるなら、わたしたちは自由になり、ついには勝利をもたらす道を選ぶことができるのです。それには勇気と忍耐、楽観的な展望と神への

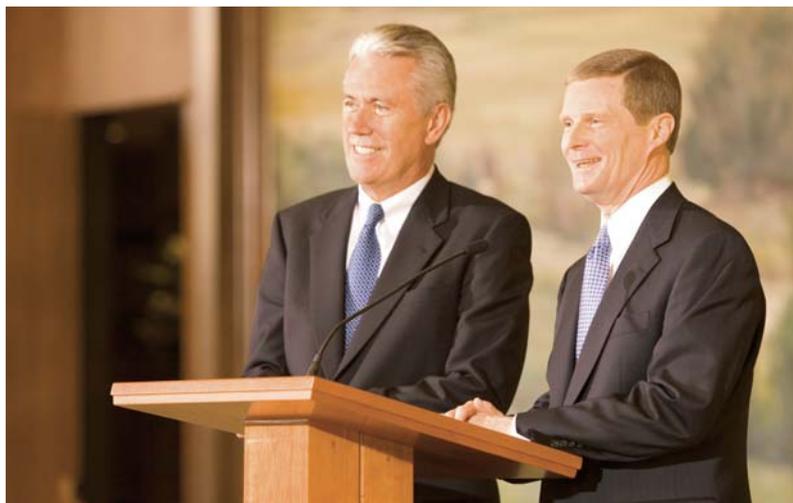
信仰が必要です。あきらめず、理性を保っていれば、物事は正しい方向に進みます。

パイロットの高等訓練を受けていた最終段階のとき、ディーターは単独飛行をしていました。隣では別の飛行機に乗った教官が操縦を指揮し、指示を与えていました。ある飛行訓練で、ディーターは緊急着陸を実演することになっていました。滑走路に向けて急降下し、着



陸に間に合うよう機体を急上昇させ、水平にするのです。若きディーターは急降下を試みましたが、操縦桿が動きませんでした。操縦不能になったのです。このままでは機体は回転を続けたまま、逆さまに墜落してしまいます。教官は「脱出しろ！ 脱出だ！」と叫びました。しかし教会の幹部がディーターを「雄牛の勇氣」を持つ人と言ったように、彼は操縦桿を反対方向に引き、再び着陸を試みました。またもや装置は動きません。「脱出しろ！」厳しい命令が再び下りましたが、今回は教官も不安を隠せませんでした。

飛行機に振り回されるのではなく、自分が飛行機を操ると決心した、将来の主イエス・キリストの使徒は、文字どおり操縦桿と格闘し、何とか動く状態にしたのです。そして急降下を遂げ、想定されていた緊急着陸ではなく、正真正銘の緊急着陸をしました。ディーターはいざというときに神の助けを得たことに感謝しながら



左ページ——ドイツ・マンハイムステーキの青少年と。

左端——1987年。

ニール・A・マクスウェル長老、グイド・ウークトドルフ、ラッセル・M・ネルソン長老、ジョセフ・B・ワースリン長老。ドイツにて。

左——当時のドイツ大統領、ヨハネス・ラウと家族歴史に目を通す。

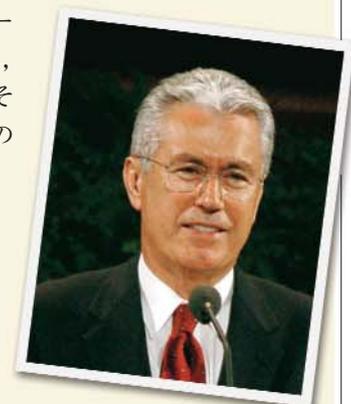
上——デビッド・A・ベドナー長老と記者会見で。

下——総大会で話をするウークトドルフ長老。

飛行機を降りました。「動揺することもできる。しかし、そうする義務もない。」ディーター・F・ウークトドルフ長老は、新たに受けた聖なる使徒の職を、確固としてそして忠実に果たしていくうえで、この言葉どおりに行っていくでしょう。ウークトドルフ長老は主イエス・キリスト、主の福音、そして主の教会にすべてをささげるでしょう。そうすることで、長老はまだ福音を知らない多くの人を新たな地平線へと導くのです。■

注

1. 「預言者の声により祝福を受け、世界に広がる教会」『リアホナ』2002年11月号、10-11
2. 『聖徒の道』1982年10月号、15参照
3. 「証の機会」『リアホナ』2004年11月号、75



デビッド・A・ ベドナー長老

主の強さの中で前進する

十二使徒定員会

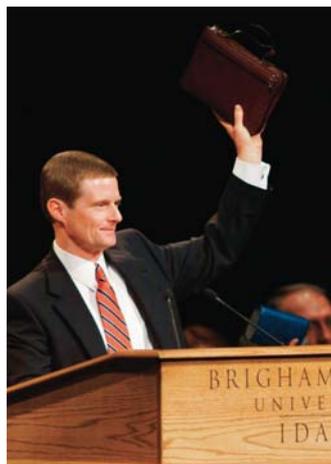
ヘンリー・B・アイリング

十二使徒定員会の会員として初めて総大会で話をしたデビッド・アラン・ベドナー長老は、聖文から教義を説き、救い主に対する個人的な証を述べました。ベドナー長老の話には、主の業を行うときに表れる彼の内なる大胆さの源が何であるかが如実に表れていましたし、そのすばらしい指導力も示されていました。ベドナー長老は、主の恵みを通して、イエス・キリストの贖いを信じる信仰を通して、また自らの罪を悔い改めることを通して、自分の力だけでは達成不可能な善を行う強さと助けを受けることができると述べました。そしてベドナー長老は、こう約束しました。「主の強さの内であれば、すべてを行い、堪え忍び、克服することができるのです。」¹

贖いから得られる力への信仰を備えたベドナー長老は、主の命じられることを行うときには必ず、自分の能力を超えた強さが与えられると確信しています。ベドナー長老のこのような信仰は、彼が教え導く人々にも同様の確信を与えます。自分と周りの人の可能性に対してこのような信仰を持っているベドナー長老のそばにいますと、楽天的なエネルギーが伝わってきます。

家庭生活

ベドナー長老の3人の息子は皆大学生です。彼らに、父親の影響について語ってもらいました。マイケルはこう言っています。



す。「信仰のおかげで父には恐怖心がないようです。父はいつも楽観的です。何か困ったことがあっても決まって父はこう言います。『きつとうまくいくよ。』わたしが伝道中につらい経験をしたときも、熱心に働けば必ずうまくいくと父に教えられました。また物事がうまくいったときには、それは自分の功績ではなく、神様が与えてくださった祝福だということを決して忘れないようにと言われました。」

またもう一人の息子エリックは父親の模範を次のように語っています。「父はいつも確かな根拠、つまり預言者や聖文の言葉をひもとくよう、心がけています。父は大胆ですが、人

の言葉に耳を傾けます。靈感によって授けられた質問を投げかけ、相手の答えに耳を傾けるのです。それから、さらに靈感に満ちた質問をします。14歳のとき、神殿に参入するふさわしさを確認する面接によく似た面接を父から受けました。エズラ・タフト・ベンソン大管長を支持していますかと尋ねられ、わたしは『はい』と答えました。すると少し間を置いて、『ベンソン大管長の言葉で最近読んだ

ものは何ですか』と父は尋ねました。」このような靈感に満ちた多くの問いかけから得た教訓は、今でもベドナー長老の息子たちの心に生き続けているのです。

3人兄弟の末っ子ジェフリーは言います。「小さいころから、父は目標を設定することと信仰を行使することを教えてくれました。」またこうも言っています。



左ページ(上から)——2004年11月16日、ブリガム・ヤング大学アイダホ校のディボーションナルでのベドナー長老。「神の御言葉から学んでください」といういつもの勧告を述べながら、聖典を掲げた。

幼いころのベドナー長老。父親とともに。小学生時代。

上——十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老。

「皆さんに知っていただきたいのは、父がごく普通の人間だということです。ただ父は、主の強さの内にあつて並外れたことを行うことができるのです。父は贖いの力によって何事でも可能になるという生ける証人なのです。」²

ベドナー姉妹は夫についてこう述べています。「夫をよく

知っている人は恐らく、夫は厳格だけれども柔和であると言うことでしょう。夫は高い能力と深い哀れみの心をあわせ持つ人です。行動力と識別力を兼ね備えています。忠実であるとともに恐れを知りません。夫は人を導く偉大な能力と従順に従う知恵を持っています。」

息子たちと同様、ベドナー長老も幼少期を過ごした家庭から大きな影響を受けています。長老は1952年6月15日カリフォルニア州オークランドで生まれました。母親のラビナ・ホイットニー・ベドナーは、開拓者の子孫で、教会に忠実な女性でした。ベドナー長老は、母親と母親の信仰について「堅固」という一つの言葉で表しました。父親であるアンソニー・ジョージ・ベドナーは、熟練した職人で工具や鋳型を作っていました。父親は教会員ではありませんでしたが、毎週息子と一緒に教会に集い、そこで奉仕を行い、ベドナー長老が伝道に出るときにも協力的でした。

幼いころにも、そして伝道中にも、ベドナー長老は父親によく尋ねていました。「お父さんはいつバプテスマを受けるつもりなんですか。」父親の答えはこうでした。「教会員になることが正しいことだと分かったときには、教会に入るつもりだよ。」その後何年もたち、ベドナー長老が伝道を終え、結婚して親もとを遠く離れて暮らしていた時のことです。とある水曜日に父親から電話がありました。「今度の土曜日は空いているかい。カリフォルニアに戻って来て、わたしにバプテスマを施してもらえないだろうか。」ベドナー長老は行って父親

にバプテスマを施し、確認の儀式と聖任を行いました。父親からの突然のこの電話と、そのとき父から頼まれたことについて、ベドナー長老はこう回想します。「わたしが生まれてきたのは、そのためであると心から信じています。父に福音を教えるためではなく、父が回復された福音を学ぶ助けをするためにです。」³

デビッド・ベドナー長老はドイツで伝道しました。伝道に出て1年もたらずに伝道部長補佐に召されました。伝道を終えると、ブリガム・ヤング大学に戻り、ワイオミング州のアフトンという小さな町で育ったスーザン・ケイ・ロビンソンに出会いました。スーザンの家族は熱心な教会員で、地域の指導的役割を担っていました。父親は銀行の頭取で、教会では監督を務めていました。デビッドとスーザンは1975年にソルトレーク神殿で結婚しました。

ベドナー長老は総大会の話の中でベドナー姉妹についてこのように語りました。「妻のスーザンは徳高い女性であり、義に

かなった母親です。その表情を見れば、妻が清く、善良な女性であることを皆さんもすぐに分かるでしょう。言葉では表現できないほど、彼女を愛し、感謝しています。』⁴

教師、そして指導者として

ベドナー姉妹は1974年、ブリガム・ヤング大学で学位を取得しました。ベドナー長老は1976年に学士号を、1977年に修士号を取得してブリガム・ヤング大学を卒業しました。1980年にはパーデュー大学で博士号を取得し、フェイエットビルのアーカンソー大学で教鞭を執りました。また1982年には、30歳にしてステーキ副会長に召されました。それ以外にも、監督、アーカンソー州フォートスミスステーキ会長、アーカンソー州ロジャーズステーキ会長、それから地区代表、そして後に地域幹部七十人として奉仕しました。

これらの責任を果たす傍ら、ベドナー長老は姉妹とともに3人の息子を育て、勤務先であるアーカンソー大学ですばらしい業績を残しました。アーカンソー大学ビジネスカレッジの学長であるドイル・Z・ウィリアムズは、ベドナー長老のひとりとなりを述べるに際し、職場での地位や業績ではなく(そのことについても述べるべきことはたくさんあるのですが)、人としての影響力について語っています。「デビッド・ベドナーは大学の首脳部の一員でした。彼のおかげでわたしたちの展望はさらに明確なものになりました。彼は常に学生に対する熱意や、同僚の力になろうという意気込みにあふれていました。どのような話し合いの場にも、良識と思いやりをもたらしてくれました。模範によって同僚や学生に良い影響を与え、高い評価を得ていました。」

ウィリアムズ学長は教会員ではありませんが、ベドナー長老の偉大な影響力を目の当たりにしました。広い地域を管轄するアーカンソースタークでベドナー会長の副会長を務めたジェリー・エブラムも、ベドナー長老の影響を身近で観察しました。エブラム兄弟はベドナー長老の印象を次のように語ります。「ベドナー長老と一緒に毎月平均2,000マイル(約3,200キロ)を旅しました。ですから彼のひとりとなりが次第によく分かってきました。妻はベド



ナー長老からステーキ扶助協会会長に召されました。また娘がイギリスに伝道に旅立つときには任命してくれました。またこの娘の双子の妹が亡くなったときに彼が葬儀で語ってくれた言葉は、非常に力強く、哀れみ深いものでした。17歳だった娘は、仲の良い二人の少女とともに痛ましい交通事故で命を失ったのです。悲しい葬儀

でしたが、ベドナー長老のおかげで、耐えることができました。ベドナー長老はわたしたちが最もつらかったときに、後ろから支えてくれたのです。葬儀を終えた後わたしは、ベドナー長老はこれまで会っただれよりも霊的に哀れみに満ちた人であると日記に記しました。」

エブラム兄弟はこう続けます。「アーカンソー州のこの地域の末日聖徒の力強さは、間違いなく、ベドナー長老の努力と熱意と指導力に直接起因しています。ベドナー長老について特に印象に残っていることの一つは、ステーキのすべての会員に、どの集会にも聖典を持って来るよう呼びかけていたことです。わたしたちが聖典を持っていないことに気づくと、ベドナー長老は決まって持って来るように勧めていました。」

デビッド・ベドナーは心から聖文に頼り、その重要性を教えていましたが、そのことは彼が神権者として奉仕するときは常に表面に表れていました。ベドナー長老はこう回想しています。「伝道前の研修で、わたしたちはソルトレーク神殿の荘厳な広間に集まりました。そこには、300人の宣教師の質問に答えるために、ハロルド・B・リー大管長がいました。リー大管長は白いスーツを着て、手には白い聖典を持っていました。リー大管長は宣教師からの質問に対して聖文をひもといて答えました。そうでないときは『わたしには分かりません』と答えていました。わたしはその場に座り、自分は決してリー大管長ほど聖文に精通することはできないだろうと考えました。けれどそのとき、わたしもリー大管長のように、聖文を使って教えるを説きたいという目標ができました。この心からの望みが、わたしの聖文学習の基盤なのです。」

ベドナー長老は指導者として、人々にも自分と同じ心からの望みを持つように励まし続けてきました。1987年、ベドナー長老はアーカンソー州フェイエットビルで監督を務めていたときのことをこう回想します。「ある日曜日に初等協会に出席しました。招きを受けていたのです。赤いズボンつりを身に着けて行くことにしました。実物を使ったレッスンで使おうと思っていたのです。初等協会の部屋に入り、上着を脱いでこう言いました。『皆さん、監督は今日赤いズボンつりをして来ましたよ。このズボンつりと聖文には似



ているところがありませんか。』一人の少年が手を挙げて言いました。『聖文はイエス様に対する信仰を引き上げてくれます。そしてズボンつりはズボンを引き上げてくれます。』『まったくそのとおりです』とわたしは言いました。それ以来ワードの若い少年たちは赤いズボンつりを身に着け、女の子は髪に赤いリボンを飾るようになりました。

わたしの父は工具や鋳型を作る職人だったので、どこへ行くにも工具を持ち歩きました。未



日聖徒イエス・キリスト教会の会員にとっての工具は聖典です。ですから集会には必ず聖典を携えて行くのです。ステーキ会長に召されてから、わたしたちは会員たちの前で聖典を度々かざして、聖典をひもとくならば、信仰がいかに引き上げられるかを思い出してもらうようにしました。」

ベドナー長老がアーカンソー州を去って何年も後に、アイダホ州の片田舎のステーキに、一人の兄弟が神権の面接を受けにやってきました。使い古した聖典を携えていました。面接を行っていた中央幹部は、この兄弟が聖典を大切に持っているのが気になっているようでした。この兄弟はにっこりとほほえみ、聖典を掲げて言いました。「若いころアーカンソー州で陸軍に所属していました。当時そこは、ベドナーステーキ会長が管理していました。今でも聖典を持っていると心が落ち着くのです。」⁴

転換期に学長を務める

1997年、デビッド・A・ベドナー長老はアイダホ州レックスバークのリックスカレッジの学長に就

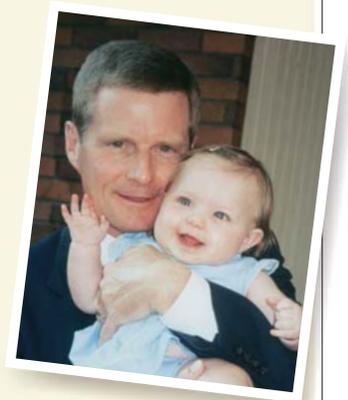
任しました。当時リックスカレッジは、8,500人の学生を擁する、全米最大の私立短期大学でした。教職員との最初の会議で、ベドナー長老は言いました。「これまで大学の学長を経験したことはありません。やり方もまったく分かりませんが、教育について若干理解していることがあります。教育者としての経験が、この船出に少しでも役に立てばと願っています。」⁵

ベドナー長老は大学を導き始めると同時に、教えることを始めました。そして、決して教えることをやめませんでした。毎学期宗教のクラスを一つ担当したのです。また姉妹とともに学生を家庭の夕べに招待しました。招かれた学生は聖文と靈感に満ちた質問を通して教えを受けました。ベドナー夫妻がレックスバークに住んだ数年間に、実に3万5,000人近くもの学生がベドナー家の家庭の夕べに出席して祝福を受けました。

2000年6月、ベドナー学長は、リックスカレッジをブリガム・ヤング大学アイダホ校という名の4年制大学に変えるという計画を知らされました。2001年8月10日、リックスカレッジは正式にブリガム・ヤング大学アイダホ校となりました。その後3年足らずで、つまり2004年の夏が来る前に、大学は高等教育機関基準審査を受けたことを発表しました。大学制度の移行に関して十分な通告を受けていなかったにもかかわらず、大学はこの偉業を成し遂げたのです。

学士号を授与する4年制大学への制度変更を推し進めていったベドナー学長はさらに、大学をユニークな教育的実験を行う場に変えました。つまり、イエス・キリストの福音への信仰を築くということを根底にしなが、革新的な教育現場に変えることを目標としたのです。

左ページ(上から)
——母親とともに。
両親、妻のスーザン、
幼いころの息子
マイケルとエリック。
1979年、
ベドナー長老の
父親がバプテスマを
受けた日に。
アーカンソー州
ロジャーズステーキの
会長当時。
左——グランドティートン
国立公園での家族休暇。
上——ベドナー家族。
下——孫娘のエミリーと
ともに。





秋に入学し春に卒業するという従来型の学年制度は改められ、学生は年間を通じてどの学期からでも入学できるようになりました。これによって大学は年間を通じて施設を学生で満たせるようになり、さらに多くの学生が学べるようになりました。このシステムのおかげで、学生は夏休み以外にも学校を離れて実務研修に参加できるようになりました。

教授、助教授などの肩書きを廃止し、教員の伝統的な地位や名声よりも学生の指導に焦点を当てるようになりました。大学対抗のスポーツ競技は廃止され、その代わりとして、参加を希望するすべての学生のために、社会性、指導力、芸術性、運動能力を高める行事を行う活動が行われるようになりました。

大学の規模拡張に伴い、新コースの開設、教員の採用、学生や教職員が利用する施設の設計と建築を計画する必要性がありました。ベドナー学長は、このような変更をできるだけ多くの教職員とともに行うことにしました。教職員はそのために、生活を大いに調整しなければなりません。そしてそのような調整には困難を伴うこともありました。

ベドナー学長は当時の経験をこのように回顧します。「ヒンクレー大管長がリックスカレッジをブリガム・ヤング大学アイダホ校にすると発表したとき以上に、熱心にまた頻繁にひざまずいた経験を思い出すのはほとんど不可能です。

ヒンクレー大管長による発表の前夜、同僚の一人から尋ねられました。「学長、怖いですか。」記憶に間違いがなければ、わたしは次のように答えました。「この改革を自分たち自身の経験と判断にゆだねられていたとしたら、非常に恐れたことでしょう。しかし、わたしたちには天の助けがあります。どなたが見守っておられるか知っており、頼れる御方がいらっしゃるの、恐れる必要はありません。」

ベドナー学長はさらにこう続けます。「BYUアイダホ校の将来に対してヒンクレー大管長が持っている展望は、単に2年制か4年制かという問題ではありません。また学業やスポーツで上を目指すことでもありませんし、名称の変更でもありません。BYUアイダホ校になるという発表は、信仰、すなわち未来の信仰に関する問題なのです。比較的短期間のうちに実施されたこの改革を振り返り、幾つもの奇跡が起こったこと、啓示が与

えられたこと、また扉が開かれたことを証します。わたしたちは個人として、また大学として豊かな祝福を受けています。これらの日々は、ほんとうに、決して忘れられないものです。」

当時、学生生活担当副学長としてベドナー学長のもとで働き、現在はBYUアイダホ校の暫定学長を務めているロバート・ウィルクスは、ベドナー長老がどのようにして改革を推し進めたかについて、このように述べました。「彼は勇気の人です。小数の人から出た強い反対意見に直面しながらも、ベドナー学長は人々の心に変化をもたらし、旧態に固執する人々に忍耐強く接しました。

ベドナー学長は改革を直ちに実行に移しました。決して迷いませんでした。ベドナー学長が預言者と理事会に完全に忠実であることは、皆の目に明らかでした。けれどもまた必要なときには熱意をもって決然と理事会に意見を述べることで知られていました。ベドナー学長が理路整然と意見を述べれば、人々はたいてい納得しました。

ベドナー学長はまた、この変化は歓迎されるだろうと明言しました。偉大な変化は、『教えに教え、訓戒に訓戒を』という形でもたらされるという彼の教えは、皆から支持されました。⁶ 彼はまた学生の力を認めていました。ベドナー学長の展望の中には、学生が互いに教え合うというものも含まれていました。彼はBYUアイダホ校の改革に学生を非常によく参加させたので、教職員が逆に学生から感化を受けて改革のために働くという場面も多く見られました。

ベドナー学長は人前でも、あるいは人目に触れない所でも、すぐに人の功績を認めていました。この改革が教会の発展に大いに役立つと常に述べていました。BYUアイダホ校が神の王国を建設するために非常に有効であることを示していました。改革によって、これまで機会のなかった学生の入学が可能になることを知っていて、そのことを人々に伝えました。ベドナー学長はすべての経験を、霊的な理解を深める機会ととらえているようでした。」

ベドナー長老の非常に優れた特質は、あらゆる人を喜んで参加させること、それに、あらゆる人がかけがえのない意見を述べる可能性があることを心から信じていることです。秘書であるベティー・オルダムは、そのようなベドナー長老の特質を目の当たりにした人の一人です。彼女はベドナー学長について、このように言っています。「ベドナー学長は人に委任することを決して恐れませんが、概要とポイントを明確に説明し、後は責任を果たす人に任せて、すばらしいものを仕上げさせるのです。

ベドナー学長は物事の全体像は持っていますが、こまごまとしたことに口を挟みません。学長からは、ロボットのように従うのではなく、自分の意思で行動するようにと、教えられてき

した。そして実際これまで学長から、自分の意思で行動する機会を与えられてきました。ベドナー学長の前では、だれでも発言の機会があって、考えや意見を自由に言うことができます。たとえそれがそこにいる全員の意見とまったく逆の意見であってもです。ベドナー学長がいれば、自分が発言したことにはばつの悪い思いをする人はいません。評議の場では互いに話し合うというこの考え方は、学内全体に新風を吹き



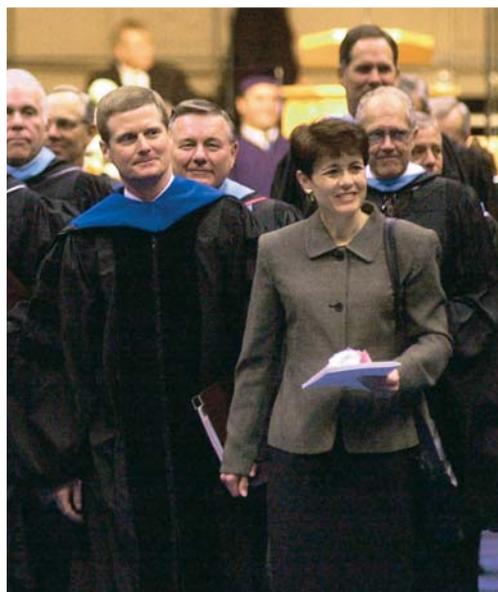
写真/ジョン・ハート, CHURCH NEWS



込みました。ベドナー学長といるといつも、『わたしの意見は尊重されている』と感ずることが出来ます。』

このような指導力を備えたベドナー長老のもと、アーカンソー州においては一つの家族がそのきずなを強め、教会はさらに堅固に築かれていきました。短期大学は立派な総合大学となり、そこで学ぶ者も働く者もいっそうの成長を遂げています。

ベドナー長老の人を高める大きな能力、そして主の望まれることなら何でも行う勇氣は、イエス・キリストへの証が源となっています。ベドナー長老は、祈ること、聖文の学習、さらに個人的な試練を通して、救い主の特別な証人としての資格を備えてきたのです。ベドナー長老にとって、使徒に召されたことで、これまでの生活を変える必要はないでしょう。総大会での初めての話の最後に述べた彼の言葉が真実であることは、彼の人生そのものが如実に物語っています。「主と主の教会の指導者が言う所ならどこへでも行きます。彼らがしてほしいと望むことなら何

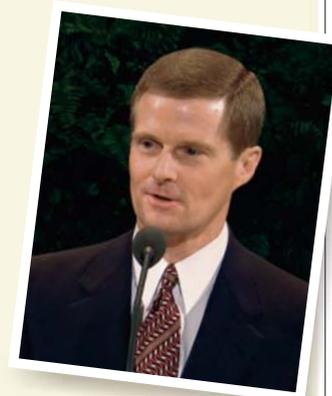


左ページ——
リックスカレッジの
書店で学生を手伝う。
左端——ベドナー姉妹、
ベドナー学長、
息子のマイケルに
囲まれながら、
ゴードン・B・ヒンクレー
大管長と握手する
義理の娘のシャーロット。
左——ベドナー夫妻、
リックスカレッジの
卒業式にて。
上——記者会見での
ベドナー夫妻と
ワークドルフ夫妻。
下——総大会で
話をするベドナー長老。

でも行きます。彼らが教えてほしいと望むことなら何でも教えます。なるべき人物に、そして、ならなければならない人物になります。主の強さと恵みの内にあるなら、皆さんもわたしもすべてのことを成し遂げられると知っています。』⁷ ■

注

1. 「主の強さの内」『リアホナ』2004年11月号, 77
2. ザック・ギブソン “Elder Bedner's Son Shares Thoughts, Memorie,” *Daily Universe*, 2004年10月26日, 6で引用
3. スティーブ・モーサー “I'm a Teacher Who Is Now a College Preseident,” *Summit*, 1997年, 9-10参照
4. 『リアホナ』2004年11月号, 78
5. *Summit*, 1997年, 9で引用
6. 2ニーファイ28:30参照
7. 『リアホナ』2004年11月号, 78



回復に先立つ 出来事

シャンナ・バトラー
教会機関誌

最初の示現と福音の回復の前に、
世を備えなければなりません。

教会の回復は、天の御父と御子が初めてジョセフ・スミスに御姿を現されたときに起きたわけではありません。種を植える前に土壌を整える必要があるのと同様、イエス・キリストの教会を回復するには、その前に地上に適切な養いを与え、準備する必要があります。

大背教に続く数百年間（「キリストの教会はどうなったか」『リアホナ』2005年2月号、12参照）、主は御自身の教会を設立するために地上を備えられました。主は教会が発展できる場所を設けられ、人々が福音を受け入れていく準備ができる時を定められました。

ルネサンスと宗教改革

14世紀のルネサンス以降、人々は古くからの考え方を捨て始めました。科学、美術、文学など多くの分野の学問がヨーロッパで興隆し始めました。新しい思想、探検、発明の道が開きました。

これらの新思想が生まれ、新しい印刷技術によって聖書が広く普及したため、多くの人が宗教に関して知っていることや感じていることについて考え直すようになりました。イギリスのジョン・ウィクリフやスイスのジョン・カルピンな



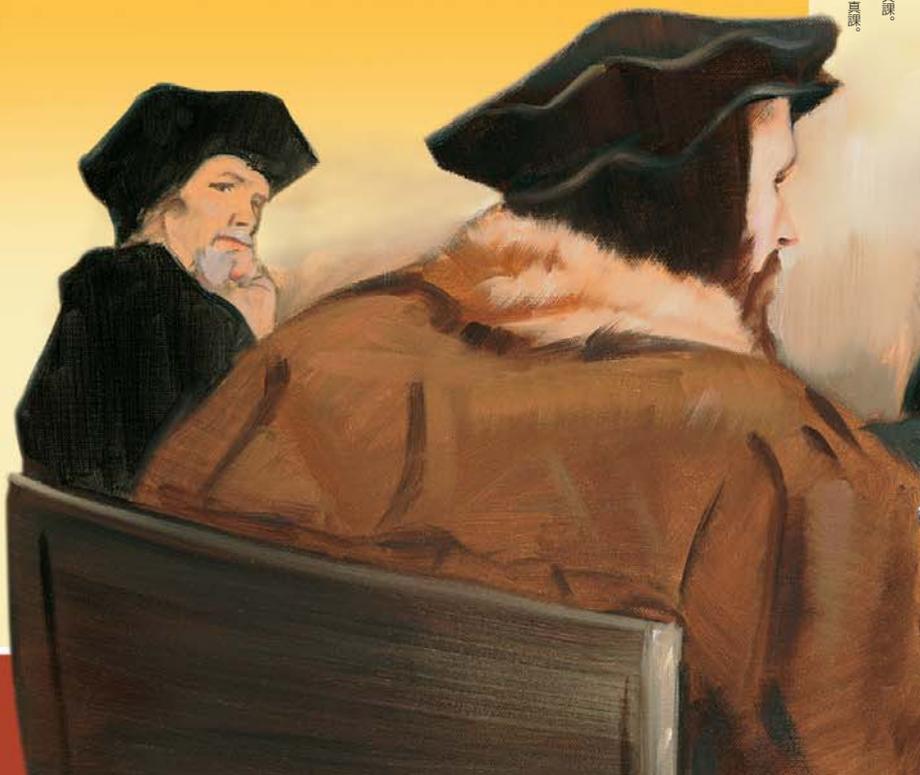
聖書

ルネサンス以前、聖書はゆっくりと手で書き写され、入手するには高価なものだった。また、一般の人が読むには難しい言語で書かれていた。そのため、裕福な者、教養のある者、教会の聖職者だけが、聖典を手に入れ、読むことができた。

1450年ごろに発明された活版印刷機により、聖書の大量生産が可能になり、そのおかげで聖書がより安価になった。低価格と新しい翻訳が出たことは聖典の普及につながった。

末日聖徒イエス・キリスト教会の英語版公式聖書は欽定訳聖書である。50人以上の学者がおよそ7年間かけて、入手可能な最良の資料を使って欽定訳に取り組んだ。欽定訳聖書は1611年に出版された。

1820年、ジョセフ・スミスは聖書を読んで、「神に、願い求める」ように促された（ヤコブの手紙1:5参照）。何百年もの間、限られた人しか聖典を手にする事ができなかったが、ついに農場に住む14歳の少年でさえも聖書を読み、その教えを学ぶことができるようになった。



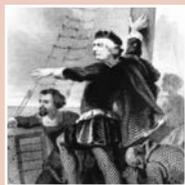
上左から①—クリスティーナ・コロネッスの肖像画／合衆国議会図書館、出版物・写真課。
②—教典の扉を飾る出で掛のルネサンス・ルター・テール・キルボン画、キルボン画。
欽定訳聖書の扉／© PHOTODISC、最初の移民者の絵／合衆国議会図書館、出版物・写真課。
下—絵／ターニル・ルイス

クリストファー・コロンブスは新しい知識を求めた。

マルチン・ルターのような改革者が宗教改革を始めた。

欽定訳聖書が出版された。

メイフラワー号が北アメリカ大陸に到着した。そのほか大勢の人が宗教の自由を求めた。



1492年



1517年



1611年



1620年

どは、キリスト教会の慣習に疑問を抱き始めました。自分たちの時代の教会と、新約時代の教会が同じではないことに気づいたのです。

キリスト教会の慣習の間違いに気づいたこの人々は宗教改革者と呼ばれ、マルチン・ルターもその一人でした。ルターは信仰心の篤い、教養ある人物で、聖書の教えに一致しない教会の慣習を変えたいと思いました。1517年、ルターは教会の慣習に関する議論を促すべく、「95箇条の意見書」と呼ばれる文書を書き、ドイツ・ビッテンベルクの教会の扉に釘で打ちつけました。この行為は宗教改革の発端と見なされるようになりました。

この抗議活動のためにルターはカトリック教会から破門されましたが、聖書の教えに従うという望みを持ち続けました。そして長年にわたる働きと聖書のドイツ

語への翻訳によって、宗教改革者の草分けとなったのです。多くの人ルターの後につき、ルターのようにキリスト教会を改革したり、新しい教会を設立したりするために戦った人々もいました。彼らは新教徒と呼ばれました。

マルチン・ルター

1483年に生まれたマルチン・ルターは、世界の歴史で最初の宗教改革者ではなかったが、最も重要な人物の一人である。しかし、ルターは初めから宗教学者を目指したわけではない。父親はルターが弁護士になることを望んでいたが、ルターは法律の勉強をやめて修道院に入った。

ルターは聖書を非常に深く学び、人は善行ではなく信仰によってのみ救われるのだと結論づけた（これは今日もルター派の教会で信仰されている教義である）。聖書の知識を豊かに持つルターは、腐敗していると感じた教会指導者と議論を起すようになった。特に、罪の赦しを金銭で買えるとされる免罪符の売りに憤慨した。

マルチン・ルターは研究の末に、教会の慣習に異議を申し立てる「95箇条の意見書」という文書を発表した。ルターは、ヨーロッパで宗教の自由のために活動を続けた後の宗教改革者の土台を築いたのである。

多くの宗教改革者がキリスト教会を改革しようとした。



靈感を受けた人たちが
独立宣言を書き、
13の植民地における英国の支配に
終止符を打った。



1776年

新教徒やそのほかのグループの中には、宗教面や経済面でのさらなる自由を求める人もいました。探検の精神はまだ少しも消えておらず、多くの人が移住地を見つけるためにヨーロッパを離れました。行き先の一つはアメリカでした。

自由の地

クリストファー・コロンブスがアメリカへ出帆したときから、人々はアメリカへ行くことに関心を抱いていました。北アメリカの入植者は13の植民地を作り、ついには連合を結成し、英国やその他の国々から自由を勝ち取りました。この新しい国家、すなわちアメリカ合衆国には、宗教の自由を保証する憲法がありました。



宗 教改革者たちは開拓者
でした。道なき道に失われた聖書の
真理を求めて必死
に分け入った宗教改

革者たちは、それが見つかりさえすれば、人類をイエスが教えられた真理のもとへ連れ戻すことができると考えたのです。

ジョン・ウィクリフ、マルチン・ルター、ヤン・フス、ツ빙グリ、ノックス、カルビン、そしてティンダルといった人々は皆、宗教改革の時代の開拓者でした。ティンダルが彼を批判する人々に向かって宣言した言葉には、大きな意味があります。「鋤を引いて畑を耕している農家の子供でさえ、あなたがたよりもはるかに聖書に精通させてみせよう。』〔ロジャー・ヒラス“*The History of the Book*” *Washington Post*, 1996年4月10日付参照〕。

それが偉大な宗教改革者たちの教えであり、また人生でした。彼らの行為は英雄的であり、その貢献も多大で、犠牲も並々ならぬものがありました。しかし、この宗教改革者たちがイエス・キリストの福音を回復することはありませんでした。』

第一副管長

トーマス・S・モンソン

「道を示してくれた人々」

『聖徒の道』1997年7月号, 62

アメリカ独立戦争が
終結し、新しい国家が
誕生した。



1781年

18世紀末から19世紀初頭、合衆国が自由国家として設立されたのと同時期に、合衆国北東部で宗教復興が始まりました。預言者ジョセフ・スミスはこの宗教復興について次のように記しています。「わたしたちが住んでいた地域に宗教に関する異常な騒ぎがあった。……実に、その地方全体がそれに影響されたようであった。そして、大勢の群衆が様々な教派に加わり、それが人々の間にただならぬ騒ぎと分裂を引き起こした。」(ジョセフ・スミス—歴史1:5)

自身を取り巻く宗教上の混乱と、聖文に対する信仰に促され、ジョセフは

1820年、家の近くの森に出かけました。ジョセフは疑問に対する答えを求めて祈りました。ジョセフの祈りの答えは、こ

クリストファー・コロンブス

預言者ニーファイは示現の中でコロンブスを見て、このように記している。「それで眺めると、異邦人の中に一人の男が見え、その男は大海によってわたしの兄たちの子孫から隔てられていた。すると神の御霊が降ってこの男に働きかけ、この男が大海を渡って、約束の地にいるわたしの兄たちの子孫のところへ行くのが見えた。」(1ニーファイ13:12)

コロンブスは日記や書簡の中で、アメリカ大陸への航海に関し、どれだけ靈感を受けたかを記しています。「主が我が心を開き、大海へと送り出し、航海を成し遂げる情熱

を与えてくださった。……聖霊がわたしに靈感を与えられたことをだれが疑えるだろうか。」(マーク・E・ピーターセン, *The Great Prologue* (1975年), 26)

何週間にもわたる航海の後、コロンブスが乗った船の船員たちは、陸地がなかなか見つからないため疲れ果てていた。コロンブスは船員たちに、もし2日以内に陸地が見つからなければ引き返すと告げた。コロンブスはそれから主に祈りをささげた。翌日陸地を見だし、アメリカ大陸を発見した。それから大勢の人がアメリカに移住を始め、政府を打ち立て、自由の国を創立した。

上(左から)トーマス・ジェファソンの肖像画。コロンブス船長の降参—ホリドザーク所蔵品。合衆国議会図書館蔵。出版・写真。下(右から)アレクサンダー・ラッセル・スミスの最初の示現。© HERG K. OLSEN。複製を禁ずる権利を留保。『聖徒の道』1997年7月号。出版・写真。下(左から)トーマス・ジェファソンの肖像画。コロンブス船長の降参—ホリドザーク所蔵品。合衆国議会図書館蔵。出版・写真。下(右から)アレクサンダー・ラッセル・スミスの最初の示現。© HERG K. OLSEN。複製を禁ずる権利を留保。『聖徒の道』1997年7月号。出版・写真。

ジョセフ・スミスが
住んでいた地域に
宗教復興が起こった。



18世紀末

ジョセフ・スミスは
聖書を読んで、
「神に、願い求める」
ことを決意した。

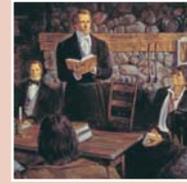


1820年

天の御父と
イエス・キリストが
聖なる森でジョセフに
みすがた
御姿を現された。



末日聖徒
イエス・キリスト
教会
が組織された。



1830年

の末日におけるイエス・キリストのまことの教会の回復につな
がったのです。

適切な時

イエス・キリストのまことの教会が回復されるには、備えら
れた地で、御父の教会を発展させるために必要なすべての
条件が整わなければなりません。ルネサンス、新教徒
による宗教改革、自由国家としてのアメリカ合衆国の設立、そ

してジョセフ・スミスという14歳の少年が備えられたことは、
すべて主が御自身の子供たちを救うために、完全な福音を
地上に回復するという主の計画の一部だったのです。■

建国の父たち

主はアメリカの最初の13の植民地の人々に靈感をお与え
になり、憲法を書き、政府を作るように導かれた。主は教義と
聖約101:80でこう述べられた。「わたしはこの国
の憲法を制定する賢人たちを立て
て、彼らの手によってその憲法を制
定し、流血によって国を贖ったの
である。」

ウィルフォード・ウッドラ
フ大管長(1807-1898
年)は、アメリカ合衆国の
建国に寄与した高潔な
人々についてこのように述
べています。「このアメリカ
政府の基礎を敷いた人々は
……天の神が地上に見いだ
された最高の霊でした。
選ばれた霊……〔そして〕
主から靈感を受けた人々
でした。」(Conference
Report, 1898年4月,
89)



あなたを傷つける 音楽もあります

「音楽には靈的に非常に害となるものもあります。……テンポ、音、そして演奏する人たちの生活態度が御霊を退けるのです。これは皆さんが思っている以上に深刻な危険性をはらんでいます。なぜなら、そのような音楽は皆さんの靈的な感覚をまひさせてしまう可能性があるからです。」

十二使徒定員会会長代理 ポイド・K・パッカー
「個人の啓示——賜、試し、約束」『聖徒の道』1995年1月号、66

扶助協会という組織を 喜びとする

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々も同様に分かち合うよう勤めてください。

預言者ジョセフ・スミス——「この組織は、神が確立された秩序、すなわち指導者として召された者を通して教えを受けるためにあります。わたしは今、神の御名により、皆さんに扶助協会を確立する責任を与えます。この組織は喜びを得るでしょう。……皆さんが自分の受けている特権にふさわしく生きるなら、天使は皆さんを支えずにはいられないでしょう。」(扶助協会、議事録、1842年3月-1844年3月、38、40、末日聖徒教会記録保管課)

教会の回復の中で扶助協会が担っている神聖な役割とは何でしょう。

中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン——「扶助協会は、生活の中で主の愛を感じる、安らぎの場でなければなりません。ここでわたしたちは、家族を強め、慈愛を実践し、聖約を尊ぶことを学びます。神聖な聖約を尊ぶならば、キリストのもとに導いてくれる組織や教会の中であって、その一員であることの価値を理解するようになります。」(『何とお互いを必要としていることでしょう』『リアホナ』2004年3月号、30)

大管長 ジョセフ・フィールディング・スミス(1876-1972年)——「教会にこのような素晴らしい組織を設立するに当たって、預言者ジョセフ・スミスは主から靈感を受けていました。

……この組織はここに所属する人だけでなく、教会員としての資格を持つすべての人にとって益となっています。……このすばらしい組織が存在しないとしたら、イエス・キリストの教会は決して完全な形で組織されたとは言えなかったことでしょう。」(“The Relief Society Organized by Revelation” *Relief Society Magazine*, 1965年1月号、4、6)

扶助協会に所属していることを喜びとするには、どうすればよいでしょうか。

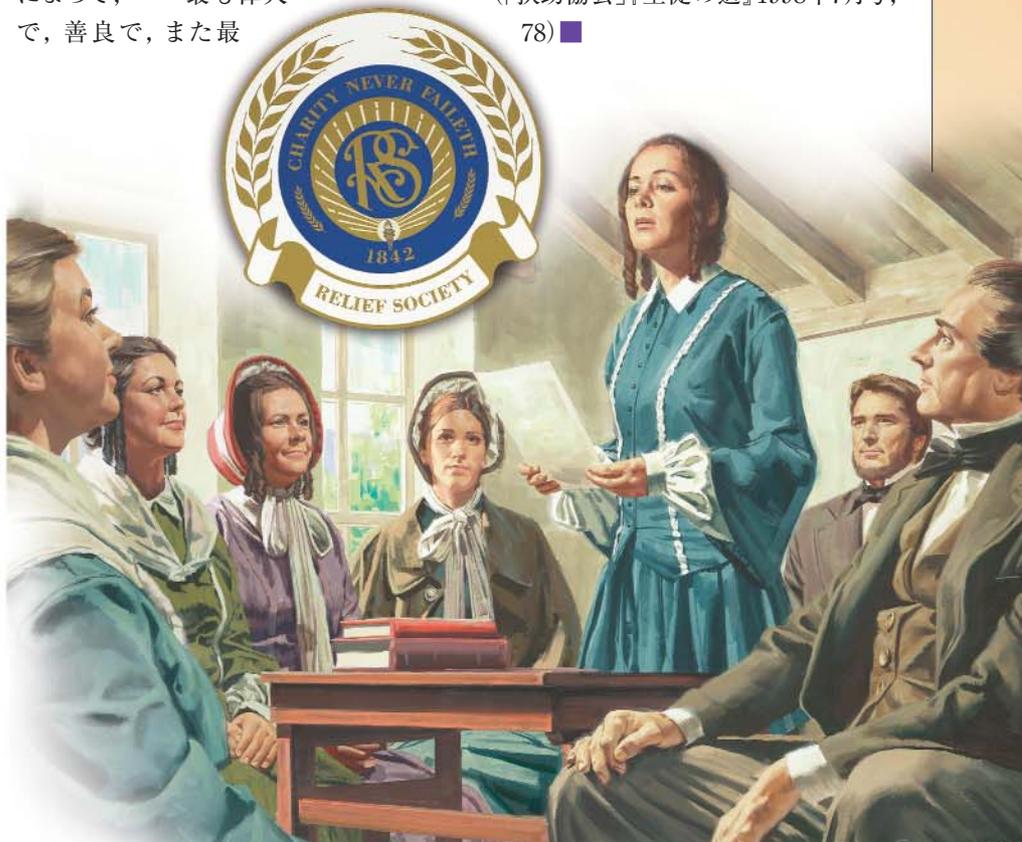
大管長 ジョセフ・F・スミス(1838-1918年)——「この組織は女性と男性の魂の救いのために、神がお定めになりました。……

……あなたがたは神の預言者の声によって、……最も偉大で、善良で、また最

も清く、義に献身する者となるよう召されています。与えられている特権を享受し、召しに属するあらゆるものを手にし、主と主の賜物を受け継ぐことは、あなたがたの義務です。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』、184参照)

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー——「頭を上げてください。勤勉に働いてください。教会から求められることは何でも実行してください。信仰をもって祈ってください。皆さんは自分たちがどれほどの良い影響力を及ぼしているか分からないかもしれませんが、皆さんの働きかけによって生活の中で祝福を得る人がいるのです。」(『教会の女性たちへ』『リアホナ』2003年11月号、115)

十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・パッカー——「単なる出席だけでなく、扶助協会への帰属感が一人一人の姉妹の心に養われなければなりません。姉妹の皆さん、扶助協会に出席するという考えを卒業して、所属するという気持ちを持たなければなりません。」(『扶助協会』『聖徒の道』1998年7月号、78) ■





いざ 救いの日を 楽しまん

1842年3月17日、預言者ジョセフ・スミスの指示によって扶助協会が設立されたとき、改宗に当たって主に仕える決心をしていたノーブーの姉妹たちは、新しい時代の幕開けを感じていました。その聖なる第1回の集会で「いざ救いの日を楽しまん」(『賛美歌』5番)*が歌われました。

以下の年表は、各中央扶助協会会長の在任期間ごとにまとめられており、それぞれの会長がともに仕えた大管長、扶助協会の遺産の中で喜ばしい重大な出来事、教会内外の歴史的出来事を年代順に載せています。今日の扶助協会の姉妹であるわたしたちも、主から頂いたこの女性の組織を喜んでいきます。扶助協会は、わたしたちが日々聖約を守り、慈愛を実践し、家族を強め、究極的に救い主イエスキリストのもとに行くことができるよう、助けてくれます。

*1842年3月17日付けの扶助協会議事録 (Relief Society minutes) [英文]には、この賛美歌は“Come, Let Us Rejoice” (「来れ、楽しまん」の意)と記載されている。しかし英語の賛美歌集では初版でも現在の版でも、この曲の題名は“Now Let Us Rejoice” (邦訳は「いざ救いの日を楽しまん」となっている。

1842-1844年

エマ・スミス



Emma Smith

「わたしたちは驚くべきことを
行うことになるでしょう。
……驚くべき機会が
訪れるでしょう。
緊急に手を差し伸べなくては
ならない事態にも
対処できるでしょう。」

(扶助協会、議事録、1842年3月
-1844年3月、1842年3月17日付
記録、12、末日聖徒教会記録保管課)

● 扶助協会の姉妹たちは、預言者から「霊を救い、貧しい者や乏しい者の世話をする」責任を与えられた。預言者は次のように宣言した。「わたしは、貧しい人々に与えることのできるものをすべて、この協会に託します。」こう言って預言者は、エマ・スミスに金貨5ドルを差し出した。

🏠 1844年、ジョセフ・スミスが殉教する。

🌐 1844年、初の電信回線が開通する。

1866-1887年

エライザ・R・スノー



Eliza R. Snow

「孤立しているという理由で
……地上に神の王国を
確立するために
何の貢献もできない姉妹は
一人もいません。」

(Woman's Exponent,
1873年9月15日付、62)

● 扶助協会の姉妹たちは、養蚕(生糸の生産)など、様々な仕事を共同で行い、家計を助ける。

🏠 1877年、ユタにおける最初の神殿であるセントジョージ神殿が完成。1880年、扶助協会、MIA、初等協会の中央会長会を設立する。

🌐 1876年、電話が発明される。1879年、電球が発明される。

「エマ・ヘル・スミス」リチャード・ウィヤード・クロウソン画。「エライザ・R・スノー」ジョン・ウィヤード・クロウソン画。「バズバ・W・スミス」リチャード・ウィヤード・クロウソン画。教会歴史美術博物館の厚層に於ける「エメリン・B・ウエルズ」リチャード・ウィヤード・クロウソン画。



1888-1901年

ザイナ・D・H・ヤング



Zina D. Young

「シオンの女性である
わたしたちは、
自らの立場を常に心に留め、
尊ぶことができますように。」

(Woman's Exponent,
1889年4月15日付, 173)

- 合衆国の扶助協会の姉妹たちが
全国婦人参政権運動を支持する。
- 1892年10月、ステーク扶助協会
会長たちが構成する最初の中央
管理会が組織される。
- 1893年、ソルトレーク神殿が奉獻
される。1896年、ユタが州に昇
格。1898年、独身の姉妹宣教師
たちが初めて召される。
- 1896年、初の活動写真が上映さ
れる。

1901-1910年

バスシバ・W・スミス



Bathsheba W. Smith

「命あるかぎり、
最も価値ある知識を
熱心に学び続けなさい。」

(Woman's Exponent,
1906年1月号, 41)

- 扶助協会は、母親のために結婚
生活、出産前の注意、育児に関
するクラスを始める。
- 扶助協会は衣服、寝具、小麦を
救援物資として国内外へ送る。
- 1907年、教会の負債がなくなる。
- 1903年、ライト兄弟が初の飛行に
成功する。1908年、ヘンリー・
フォードがT型フォード車を発売
する。

1910-1921年

エメリン・B・ウェルズ



Emmeline B. Wells

「姉妹たちに
聖文を学んでほしいのです。
…… 聖文が皆さんにとって
神聖なものとなりますように。」

(Relief Society Magazine,
1919年8月号, 439)

- 「慈愛はいつまでも絶えることがな
い」が扶助協会のモットーとなる。
- 1914年、『扶助協会誌』(Relief
Society Magazine) [英文]の初
版発行。1918年、アメリカ政府が
扶助協会から20万ブッシェル(約
5,400トン)以上の小麦を購入する。
- 1914-1918年、第一次世界大戦。
1914年、パナマ運河完成。1920
年、アメリカで婦人参政権が認め
られる。

1921-1928年

クラリサ・S・ウィリアムズ



Clarissa S. Williams

「わたしたちは、
どの時代の女性よりも豊かな
祝福を授かっています。
その祝福に値するよう、常に
努力しなければなりません。」

(Relief Society Magazine,
1921年12月号, 696)

- 月ごとの家庭訪問メッセージが、初めて『扶助協会誌』[英文]に掲載される。
- 家族がさらに健康になり、よりよい教育を受けることが強調される。
- 1924年、総大会のラジオ中継が始まる。
- 🌐 1927年、リンドバーグが大西洋横断飛行に成功。

1928-1939年

ルイズ・Y・ロビンソン



Louise Y. Robinson

「必要とされる場所へ行き、
できることをしなさい。」

(Bell S. Spafford Oral Historyで
引用, 末日聖徒教会記録保管課)

- 神権指導者の指示の下、扶助協会は教会の新しい福祉計画の実施に向けて働く。
- シングングマザーズ(ステーキおよびワード扶助協会合唱団)が組織される。
- 1928年、教会の100番目のステーキが組織される。1938年、デゼレト産業(Deseret Industries——中古の家具、服、日用品などを安価に得る店で、障害を持つ人を多く雇用している)が組織される。1930年、教会設立100周年を祝う。
- 🌐 1929-1939年、大恐慌。1939-1945年、第二次世界大戦。

1940-1945年

エイミー・ブラウン・ライマン



Amy Brown Lyman

「扶助協会の創立時の
姉妹たちは、大切にした
この組織が将来どれほど
大きくなるのか……ほとんど
理解していませんでした。」

("Relief Society in Action Today,"
Relief Society Magazine,
1944年3月号, 139)

- 神権者が戦時の必要を満たせるように、扶助協会福祉事業を拡張する。
- 家族に奉仕し、神権指導者が家族の必要を評価するのを助けられるように、訪問教師の目的を広げる。
- 戦時の規制により、教会活動が制限される。
- 🌐 1941年、合衆国が第二次世界大戦に参戦する。

「クラリサ・S・ウィリアムズ」リチャーズ画、「ルイズ・Y・ロビンソン」ジョン・ウイラード・クロニン画、「エイミー・ブラウン・ライマン」リチャーズ画、「ルイズ・Y・ロビンソン」リチャーズ画、「エイミー・ブラウン・ライマン」リチャーズ画、「エイミー・ブラウン・ライマン」リチャーズ画、「エイミー・ブラウン・ライマン」リチャーズ画



1945-1974年

ベル・S・スパッフオード



Belle S. Spafford

「扶助協会には
すべての国の女性たちを
結びつける
……偉大な活力があります。」

(*"The Spirit of the Gospel,
the Soul of Relief Society"*
Relief Society Magazine,
1949年3月号, 148)

🌐 全世界に教会員が増えるにつれ、扶助協会も国際的な組織となる。

🏛️ 1947年、教会員数が100万人に達する。1949年、総大会のテレビ中継が始まる。

🌐 1950-1953年、朝鮮戦争。1961年、ベルリンの壁が築かれる。

1974-1984年

バーバラ・B・スミス



Barbara B. Smith

「女性は、まず家庭で
小さな子供たちへ
愛を示すことから始め、
大人の友人へ、^{しんせき}親戚の人へ、
そして職場の人へ……
『毎日』愛をもって
だれかに手を
差し伸べることができます。」

(「奉仕がもたらしてくれるもの」
『聖徒の道』1984年8月号、
25-26参照)

🌐 ノーブー女性記念碑が、女性の人生の様々な面を表現した像とともに奉獻される。

🏛️ 1978年、神権に関する啓示。1980年、集会統合スケジュールが始まる。

🌐 1981年、パーソナルコンピューターが発売される。

1984-1990年

バーバラ・W・ウインダー



Barbara W. Winder

「わたしは教会の
姉妹に対して
この愛を感じていますし、
一人一人の
価値を感じています。
わたしは皆が団結し、
神権者と協力し、
神の王国を建設するために
働くことができるよう
切に望んでいます。」

(「教会の姉妹たちを愛しています」
『聖徒の道』1984年7月号, 100参照)

🌐 聖文に基づいたレッスンを新たに導入し、福音の教義クラスの学習内容とも調整が図られる。

🏛️ 1985年、教会家族歴史図書館が奉獻される。

🌐 1989年、ベルリンの壁が崩壊する。



1990-1997年

イレイン・L・ジャック



Elaine Jack

「わたしたちが
イエス・キリストの福音から
喜びを得、主の計画における
自らの立場を理解して
行動するとき、
周囲の人々が引き寄せられ、
生活に変化がもたらされます。
わたしたちは
善に飢え渴く世の人々を高め、
靈感を与えます。」

（「小さな石」

『聖徒の道』1997年7月号, 87）

- 150周年を記念する放送が、5大陸に住む世界の320万人の女性を結んだ。
- 🏛️ 1995年、「家族——世界への宣言」を発表する。1996年、アメリカ合衆国以外に在住する教会員が過半数を超える。
- 🌐 1991年、ソビエト連邦が崩壊する。1993年、インターネットが普及し始める。

1997-2002年

メアリー・エレン・スムート



Mary Ellen Smeat

「わたしたちが
人々の模範となって
真理を擁護することが
できますように。」

（「われわれは主の光に歩もう」

『リアホナ』1999年1月号, 102参照）

- ホームメーカー集会に代わり、家庭・家族・個人を豊かにする集会が始まる。
- 家庭訪問メッセージが、参照聖句と教会指導者の言葉の引用で構成されるようになる。
- 🏛️ 1997年、教会員数が1,000万人に達する。1997年、小規模神殿の建設が発表される。2000年、カンファレンスセンターが奉献される。
- 🌐 2001年、ニューヨーク市とワシントンD.C.が同時テロ攻撃を受ける。

2002年-

ボニー・D・パーキン



Bonnie D. Parkin

「この教会の
すべての女性に経験して
いただきたいことを
一つだけ挙げるとすれば、
それは
主に愛されていることを
日常生活の中で
感じていただきたい
ということです。」

（「主に愛されていることを感じる」
『リアホナ』2002年7月号, 95）

- 若い女性から扶助協会へのスムーズな移行が強調される。
- 🏛️ 2002年、イリノイ州ノーブー神殿が奉献される。2002年および2004年、3人の十二使徒が合衆国外の地域会長として奉仕するよう召される。
- 🌐 2004年、探査機ホイヘンスを積んだ軌道周回機カッシーニが土星の軌道に入る。

チャレンジに 立ち向かう祭司

マイケル・チップマン

ニューヨークの生活はいつもチャレンジに満ちています。でも、ニューヨーク州ニューヨークステーク、インウッド第1ワードに集う17歳の祭司、ルーリー・ペレスは、楽に乗り越えているようです。ピアノのコンクールで賞を逃したときも、早朝セミナーに出席しているときも、学校の勉強をしているときも、またステークの青少年のリーダーとしてユースカンファレンスの準備をしているときや、ボーイスカウト隊の上級班長として指導するときにも、家では独りで家族を養っている母親のビエンベニータ(写真下。隣はルーリー)の手伝いを欠かしません。

祭司定員会は一人だけなので、ルーリーは多くの責任を受けています。「教会に行けないたくさんの人を訪問して、日曜日には聖餐^{せいさん}を届けています。ホームティーチングにも行きます。」ルーリーはそう語ります。

今年の祭司定員会のレッスンでは、伝道に出る準備について学びました。ルーリーは、『若人の強さのために』のパンフレットや「神への務めを果たす」プログラム、またアドバイザーのジョナサン・ホーリー兄弟やマーク・ジョンソン監督に感謝しています。伝道という目標にいつも目を向けられるよう助けてくれるからです。「ぼくは日本で伝道したいです」とルーリーは語ります。「すごくいい所みたいですから。」

「ルーリーが祭司定員会で熱心に活動しているおかげで、わたしも素晴らしい祝福を受けています。」ビエンベニータはそう語ります。「ルーリーは教会が大好きで、とても霊的な子です。ルーリーの良い模範になりたいのですが、実際には多くの点で、ルーリーの方がわたしの模範となっています。」

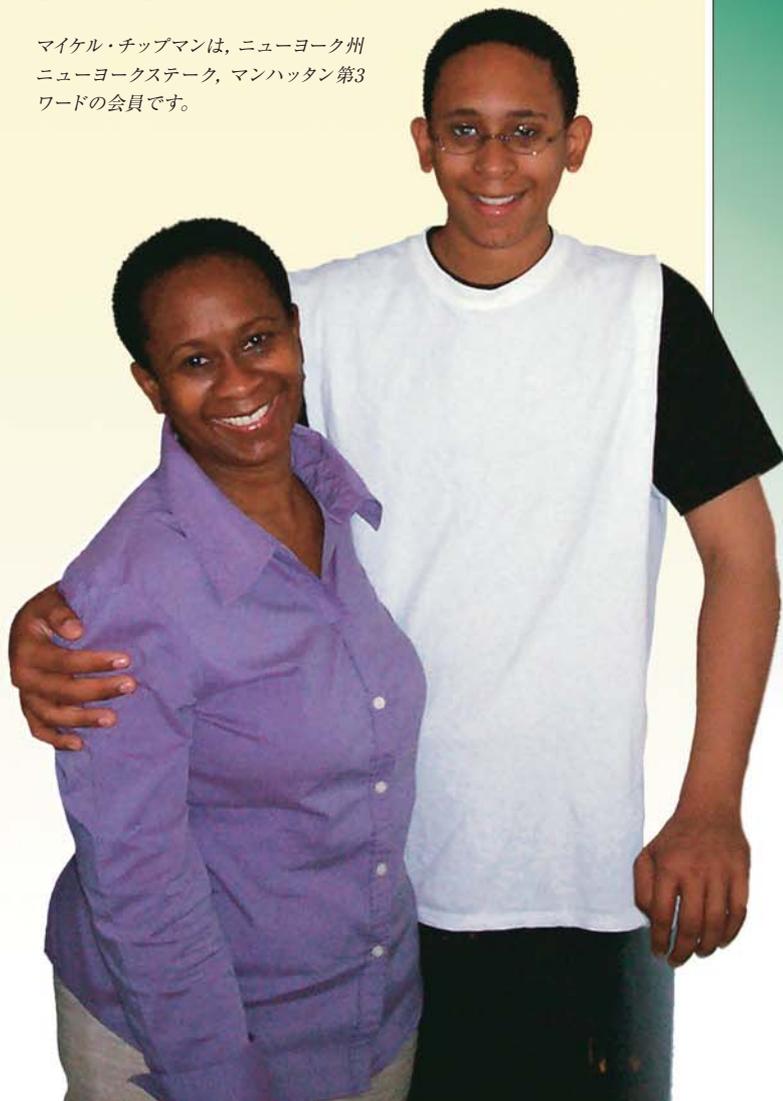
ビエンベニータは、1974年にドミニカ共和国からニューヨークに移住し、その7年後にバプテスマを受けて教会に入りました。ルーリーはニューヨークで生まれ育ち、10歳のときに教会に入りました。7歳からピアノのレッスンを受け始め、早くからピアノのコンクールで幾つも賞を取るほどまでに上達しました。伝道後は大学に入り、コンピューターアニメー



ションとプログラミングを専攻し、副専攻として音楽を学ぼうと考えています。

一致団結しているペレス家族の秘訣^{ひけつ}は何でしょうか。ビエンベニータはこう語ります。「主の戒めを知ることによって、人生の大切な事柄に目を向けることができます。二つの仕事を抱え、独りで家族を養う母親として、わたしは教会がどれほど大切かよく分かります。ルーリーの信仰が花開くのを見ていると、言葉では言い表せない幸せを感じます。」■

マイケル・チップマンは、ニューヨーク州ニューヨークステーク、マンハッタン第3ワードの会員です。



祭司 定員会

神権定員会とその目的に関する3回目の記事です。
管理監督会が祭司定員会について語っています。

祭司が受けるチャレンジにはどのようなものがありますか。また、彼らがそれに立ち向かううえで、祭司定員会はどのような助けができますか。

管理監督 H・デビッド・バートン(上中央)——若い男性にとって16歳と

いう年齢は、周囲から多くの影響を受ける時期です。デートを始める年齢でもありますし、多くの地域で車を運転できるようにもなります。アルバイトを始めようとする人もいでしょう。最も大きなチャレンジの一つは、そのような中にあっても、人生で最も大切なのは霊的な側面であるということに心を留めておくことです。たくさんの方に興味に向くようになると、霊的な事柄を忘れてしまいがちです。ですから、霊的な備えこそ生活の中で最も素晴らしい事柄であると思えるようにしなければならないのです。

「教会を楽しんでいますか。」これは、ゴードン・B・ヒンクレー大管長がいつも尋ねる質問です。ここで言う楽しみとは、娯楽やゲームだけを指すものではありません。時にはそういうことも含まれるでしょう。しかし、喜びは正しいことを行うとき、例えばバプテスマや^{おんしよ}接手の儀式に携わるときにわき起こるものです。若い男性の皆さんは正しい楽しみ方をしていでしょうか。奉仕に喜びを感じていでしょうか。

第一副監督 リチャード・C・エッジリー(左上)——この時期、若い男性は数々の重要な選択を迫られ、大きなプレッシャーを感じるものです。道徳的にますます退廃する環境も、そのプレッシャーを大きくしています。以前は、標準を守る若い女性たちによって助けられていた若い男性もいましたが、今では常にそうとは限りません。神権指導者が祭司の傍らにいて導き、霊的にも社会的にも成長できる環境を自分たちで作り出せるように助けることが求められています。



この霊的な環境を作り出すことに関して、何か具体的な提案はありますか。

第二副監督 キース・B・マクマリン(右上)——わたした

ちは祭司を過小評価しているために、彼らの能力を十分に生かし切れていないと思います。例えば、祭司にはアロン神権を

授け、執事、教師、そして祭司を聖任する権能を与えられているにもかかわらず、その機会にあずかることはほとんどありません。バプテスマを施すことについても同様のことが言えます。祭司にはまた、「説き、教え、説き明かし、勧め〔る〕」責任があります(教義と聖約20:46)。しかし、わたしたちはどれだけ、祭司が説き、教え、説き明かしができるよう助けることに思いを寄せているのでしょうか。彼ら若人には、自分たちの持つ神権に含まれるすべての義務を果たす機会がめったにないのです。しかし、もしも皆さんが祭司たちにもう一步進んで神権を使い、何か重要なことを実際に始められるような機会を与えたら、すぐにそれにこたえてくれるでしょう。彼らは、もっと多くのことをするよう勧められるのを心待ちにしているのです。啓示された祭司の務め(教義と聖約20:46-52参照)を、16歳の少年の生活に実際に取り込むのは、難しいことではありますが、素晴らしい機会でもあります。

定員会は祭司が将来への備えをするうえで、どのような助けができますか。

エッジリー副監督——神権指導者は祭司が伝道に焦点を当てられるようにすべきだと、わたしは考えています。伝道に出るには何が必要であるかを知らせ、準備できるように助けるのです。また、神殿への備えにも焦点を当てさせるべきです。伝道に行く前に交わす聖約に備えさせ、そしてメルキ

ゼデク神権を受ける準備をさせるのです。アロン神権は、そのための備えの神権なのですから。

もしも、若人がほんとうにこれらの目標に焦点を当てることができれば、誘惑に打ち勝つ力をさらに持つようになるでしょう。多くの若人が、伝道に出たいという理由から、戒めを守っています。もしもわたしが定員会の指導者なら、祭司が帰還宣教師、あるいはワードで伝道している宣教師と交わるような機会を作らしましょう。

祭司定員会の中で、監督にはどのような役割がありますか。

バートン監督——監督は定員会の会長です。監督には、神によって回復された神権の鍵かぎが与えられています。監督は鍵を用いて、若人の生活を祝福することができます。だからこそ、監督が定員会に出席することが重要なのです。あまりにも多くの場合、監督はその場にいません。それはそこにいたくないからではなく、ワードを導くために様々な責任があるためです。会長不在の場合が多すぎるのです。そのために、

貴い鍵が若人の生活に生かされないでいます。

マクマリン副監督——監督が出席しなければ、祭司定員会の集会は、単に年齢で分けた若人のクラスです。監督が保持する鍵と、聖なる御霊みたまの導きを通して、監督は何をなすべきかを知ることができます。監督が定員会にほんとうに積極的に参加するなら、定員会はまったく違ったものとなるでしょう。祭司たちも大きく変わるはずですよ。

両親や祭司の指導者に向けて、最後にメッセージをお願いします。

バートン監督——彼らが高貴な世代であることを理解する必要があります。ひととき優れた霊なのです。末日において重要な責任を果たすために取っておかれてきたことに、疑いの余地はありません。これまでの世代よりも、さらに優れた霊たちであり、ますます強くなっています。なぜなら、誘惑を退ける中でさらに強められるからです。彼らはすばらしい若人です。チャレンジはあるでしょうか。もちろんです。チャンスはあるでしょうか。たくさんあります。彼らは強いでしょうか。才能に恵まれているでしょうか。そのとおりです！■





コロンビアの 聖徒たち

強さの模範

マービン・K・ガードナー

教会機関誌

戦争。戦争のうわさ。暴力。腐敗。恐怖。これらの言葉はわたしたちすべてに何らかの影響を与えている世界情勢を示したものです。

平和。安全。自由。善意。これらの言葉は、混沌こんとんと問題に満ちた時代にあっても、実現できる状態を表現したものです。

コロンビアの教会員はどちらのシナリオにも精通しており、その上で、どこに住んでいようと、どのような状況にあらうと、イエス・キリストの福音が平安を見いだす力となることを模範によって教えています。会員たちは物質的にも霊的にも自立しつつあり、祖国を立て直す力となっています。

「紛争」を言い訳にしない

数十年間、コロンビアにおける麻薬密輸組織やゲリラとの交戦状態、誘拐などの暴力犯罪が世界中でセンセーショナルに報道されてきました。

しかし、多くのコロンビア人は国がそのような状況にあるとは思っていません。紛争状態をどのように耐えているのかと聞かれて、「何の紛争のこと？」と反対に質問するのです。自分たちの美しい国が、少数の人たちの行動によって判断されることを悲しんでいます。自分の国がほかの国に比べて特に危険だとは感じていない人たちもいます。

実際は、紛争がまったくない状態と紛争状態の中間にあります。特に村落地域は危険で、そのために都市部に移り住む人が多く、都市の人口密集化と失業問題を引き起こしていま

す。街で武装した兵士を目にするのは当たり前で、嚴重なセキュリティ検査を受けることも日常茶飯事です。教会も数か所で直接脅しを受けたり、攻撃されたりしたこともありましたが、それは数年前までで、今はほとんどありません。けが人が出たこともめったになく、小さな被害だけで済んでいます。会員たちは散らかったものを片付け、礼拝堂を修理し、福音に従った生活を続けています。しかも、楽観的なすばらしい精神をもって行動しています。

南アメリカ北地域の会長で七十人のクラウディオ・R・M・コスタ長老は次のように言っています。「この国にはいろいろ困難な問題があります。だからと言って、コロンビアの教会員はなすべきことをしない言い訳に紛争を持ち出ししたりはしません。自分の行動には自分で責任を取っているのです。」

物質的な自立を進める

「問題の一つが、ひどい貧困に陥っている会員が多いことです。」コロンビア・ボゴタ・ケネディーステーキのファビアン・サーベドラ会長はそう言います。

コロンビアの教会は、会員が物質的に自立できるよう支援することに重点を置いています。

教育の奨励 「大きな奇跡が起こっています」とコスタ長老は言います。「多くの人が教会に入って来た当初貧しい生活を送っていました。しかし、預言者は、子供たちに教育を受けさせるようにと語り、皆そのために多大な犠牲を払って

ます。その子供たちは家族の中で初めての大学生です。多くが良い仕事を得て、もう貧しくはありません。」一つの例がルイス・プリエトです。ボゴタの貧しい家庭で育ったルイスは、両親、きょうだいとともに1972年にバプテスマを受けました。その後両親は子供たちに教育を受けさせるために多くの犠牲を払いましたが、現在ルイスは弁護士として成功しています。

コロンビアには永代教育基金の恩恵を受けている男性、女性が400人近くいます。ある若い男性は伝道を終えてすぐ神殿で結婚しました。父親は言います。「息子は家族を養う準備はできていなかったし、わたしたちにも学費を援助するすべはありませんでした。

それで、息子は永代教育基金を申請し、今専門教育の2学期目に入っ

ています。」彼は同時に宣教師訓練センターで教師として働き、専攻する分野での求職活動もしています。「永代教育基金はこの国の若者たちに希望をもたらしてくれました。」地域会長会第一副

**ロベルト・ルビオ
神殿長とレオノール
夫人はコロンビアで
生まれました。
「わたしたちは紛争と
罪悪に取り囲まれて
いるかもしれませんが。
でも、神殿のおかげで
平安を得ることが
できます。」**



写真提供：ロベルト・ルビオ、レオノール・バリオ夫人。左：ハリス・カサネ。© COMSTOCK、© PHOTODISC

会長のウォルター・F・ゴンザレス長老はそう語ります。

失業者支援 負債をせず、^{じゅうぶん} 十分の一を納め、成功する方法を互いに教え合いなさいと、教会の指導者は教えています。また、他国へ移住せずにコロンビアにとどまって教会の発展に尽力することを奨励しています。

コスタ長老は言います。「神権指導者が失業したときは、すぐにカウンセリングを行います。必ず1週間以内に雇用スペシャリストや関係者が面接し、意見を出し合います。カウンセリングを受けた人は希望と意欲を得て、積極的に何かを達成しようという気持ちになるのです。」別の会員が失業したときには、この指導者たちが同じように相談に乗り、助けます。

作物を育てる ボゴタ・ケネディーステークセンターの裏には、1平方メートルの小さな畑が二つあります。この都会の中では珍しい光景です。ファビアン・サーベドラ会長とローサ夫人は小振りな作物を誇らしげに見せてくれました。「こんな小さな畑ですが、ラディッシュ、ニンジン、トマト、ジャガイモ、キャベツ、豆類、レタス、それに、ハーブを育てているんですよ。」サーベドラ姉妹はラディッシュを抜きながら話してくれました。「とても狭い場所で、少ししか植えられない人もいますが、原則を学んで従っています。」

サーベドラ会長も言います。「狭いスペースでもどれだけ収穫できるかを見せることを目的に、このような集会所に畑を作っています。多くの教会員が作物を育てて収穫の祝福を^{あかし}証しています。わたしたちのアパートには庭がありません。ですから、植木鉢が我が家の畑というわけで、そこにトマトを植えています。植木鉢を窓際に置いているのですが、見事な生長ぶりですよ。」

ポパヤンに住むアルフォンソ・テノリオは医師である傍ら、医学専門誌を出版しています。それに加えて妻のルシアと二人で取り組んでいる仕事があります。その仕事とは、父親の家の裏にある広い畑での農作業、おばの畑仕事の手伝い、カトリックの学校にある畑で末日聖徒の若い男性たちの作業を確認することです。二人は市民グループや奉仕クラブの人たちを対象に講演し、家庭菜園推進に力を注いでいます。テノリオ兄弟姉妹の努力によって、ポパヤンでは家庭菜園が広く流行し、多くの家庭で行われるようになりました。「わたしたちがこうやって努力しているのは、友人や近所の方たちが自立



平和が 支配しますように

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は神殿の奉獻式で次のように祈りました。「わたしたちは、あなたの聖なる恵みがコロン

ビアの国に注がれることを願います。神の僕^{しもべ}たちに親切に接するこの国の民と政府を祝福してください。平和がこの国を支配し、紛争の騒音が静まりますように。御業が妨害を受けることなく進み、平和のメッセージを携えた神の僕たちが務めを果たすときに守られ、導かれますように。」(“Thy People Will Enter into Covenants with Thee,” *Church News*, 1999年5月1日付, 10)

するのを助けるためです。そうすれば、困ったときにも食べていくことができますから。」アルフォンソはそう言います。

食料と水の貯蔵 家がどんなに狭くても、会員たちは食糧を貯蔵するスペースを見つけています。ボゴタに住むカルメン・メリサルデの家にある電話台には床まで届ききれいなカバーが掛けられています。実は、ドライバック食品が詰まった樽^{たる}なのです。

会員たちは、食事の支度をする度にほんの少しずつ、たとえ一握りでも、米などの基礎食品を蓄えるようにとされています。お金があまりなくても、こうして少しずつためていき、十分な量

になった時点で貯蔵用にドライバックするのです。ステーキがドライバック用機械を所有しており、各ワードに順番に回すことで全員が利用できます。「一握り、また一握りとためてきた米を初めてドライバックできたとき、多くの人の目には涙が浮かびます。その様子を見ていただきたいものです。」サーベドラ会長はそう言います。

人に分かち与える ボゴタに住んでいるイボンヌ・パラシオの台所の棚には、決して彼女自身の食卓に上ることのない食料品があります。それは人のために取ってあるものだからです。地域会長会は会員に対し、緊急時に人に分かち与えるための食料を貯蔵するように勧めています。「わたしたちはそれを、『会員の家庭にある主』の倉と呼んでいます。監督は家族に、いつも寄付用に一定量の米などの基礎食品を用意しておいてほしいと伝えています。会員は困っている家族に提供してほしいとの監督の依頼に応じて寄付し、そのあとさらに買い足して寄付した分を補っています。」コスタ長老はそう説明します。

この方法には幾つか利点があります。コスタ長老は次のように言っています。「第1に、自分の食糧貯蔵を進めようとする会員たちの動機づけになります。第2に、緊急時に敏速に対応できます。第3に、医薬品や家賃など現金が必要などのために、断食献金基金を使わないで残しておくことができます。ケネディーステークは金銭的には貧しいステーキですが、ほとんどの家族はある程度の貯蔵ができていただけではなく、寄付用に蓄えている人も多くいます。このステーキは断食献金基金に関して自立しています。」

「わたしたちが蓄えているのは食糧と水だけではありません。祝福も蓄えているんです。天の御父はわたしたちに、キ

リストの純粋な愛を持つようにと教えておられるのです。」パラシオ姉妹はそう話してくれました。

ケネディーステーク、バンデラスワードのイルマ・ピニャーロスは扶助協会で裁縫を教えています。「ある姉妹は家にながら収入を得る必要がありました。それでミシンを差し上げたんです。今、その姉妹は家族を養うことができています。」

コロンビア・ボゴタ神殿のロベルト・ルビオ神殿長は言います。「厳しい財政問題のさなかではありますが、教会の会員たちは食べ物、衣類といった必要なものは持っています。生きていくのにはやはり大変な苦勞が要ります。しかし、この国の経済水準から見れば、会員たちに必要なものは足りています。」

また、コスタ長老も言っています。「わたしはステーキ大会で、教会員になってある程度年月がたっている会員に、過去を振り返ってみて、教会

に入る前の方が裕福でしたかと尋ねるのですが、そうだと答えた人は今まで一人もいませんでした。教会に入って会員たちの持ち物は増えこそすれ、少なくなることはありません。」

霊的な自立を進める

コロンビアの聖徒たちは、「聖なる場所に立ち[なさい]』という主の勧告に従っています(教義と聖約87:8)。「わたしたちは会員に霊的に自立するように教えています。何かが起こってほかの聖徒たちと会うことができなくなっても、家庭の中で福音に積極的に従った生活を続けることができるようになるためです。」このようにコスタ長老は話しています。

家庭と家族を強める コロンビアの会員は家の外に出るとき、どうしているのでしょうか。非常に危険であるにもかかわらず、子供たちが外

に出るのを許しているのはなぜでしょうか。その答えは、世界中の会員たちの答えと驚くほどよく似ています。コロンビア・メデリンステーキのセルジオ・コレア会長は次のように答えてくれました。「ドラ

ボゴタにある8つのステーキの会長、副会長



カルメン・メリサルデ



ルシア・テネリオと
アルフォンソ・テネリオ



ローサ・サーベドラとファビアン・サーベドラ

多くの会員が物質的な自立を目指して作物を育て、食料を貯蔵しています。

とわたしは毎朝家を出る前に子供たちと家族の祈りをして、危険を避けることができるように助けてくださいと、主をお願いしています。わたしたちは、聖霊を導き手だと考えています。そして、正しい判断を下すように努力して、必要なことを行います。夜の家族の祈りでは、見守ってくださったことに感謝しています。」これは新しい方法などではありません。しかし、平安を得るための方法です。

コレア会長はさらに続けて言いました。「爆弾に真の意味で破壊する力はありません。破壊をもたらすのは罪です。家族で祈り、聖文と現代の預言者の言葉を研究し、家庭の夕べを開き、教会に出席し、できるだけ頻繁に神殿に行くようにステークの会員に勧めるのはこのためです。」

地域幹部七十人、および、地域会長会第二副会長であり教会教育システム教育長を務めるロベルト・ガルシア長老は、末

日聖徒の青少年のことをよく知っており、こう語っています。「薬物はコロンビアの教会の青少年にとって、大した問題ではありません。それより深刻なのは、子供たちに福音を教えない親がいることです。わたしたちは家族に正しい教義を教えることによって、古い体質を変え、行動のサイクルを変えているのです。」

神殿に備える スペンサー・W・キンボール大管長がコロンビア・ボゴタ神殿建設の発表を行ったのは1984年の4月でした。しかし、実際に神殿が完成するまで15年かかりました。その間の年月は妨害と法律上の問題、そして、落胆ばかりが続きました。しかし、断食と祈り、熱心な働きに満ちた時でもありました。多くの人が待ち切れずに長い距離を旅してほかの国の神殿に行きました。そうでない人たちは、個人的な障害を克服するためにさらに多くの時間を費やしました。1999年4月、神殿の扉が開いたとき、忍耐強く待ち、よく準備した聖徒たちに豊かな祝福が注がれたのです。

地域幹部七十人として奉仕している神殿建築士のセザール・A・ダビラはこう語ります。「問題は多く時間もかかりましたが、それは人々を清める助けとなりました。あの苦労した期間、わたしたちは最も大切なもの、つまり家族と証を重んじることを学びました。」

神殿は、地下50メートルに達する200本以上の強化杭でできた頑丈な基礎の上に建てられているとダビラ長老は説明してくれました。「主の助けがあれば、この神殿は何世紀も建っていることでしょう」と語るダビラ長老は、神殿の頑丈な基礎を象徴として見ているのです。「わたしたちは『神の

家 族が霊的に自立する
ようになると、
家庭は神聖な
場所になります。



コレア家族



トボン家族



エルナンデス家族



フリアオ家族

EL LIBRO DE MORMÓN

OTRO TESTAM...
DE...

御子でありキリストである贖い主の岩』の上に築かれているでしょうか(ヒラマン5:12)。信仰、証、聖文研究、祈り、生ける預言者に従うことなどの強い柱の上に築かれているでしょうか。」ダビラ長老はそう問いかけています。

神殿によって祝福を受ける 「人々は神殿に参入することによって、自らの霊的な質を高めています。今、わたしたちには力強い指導者がいます。また、さらに多くの教会員が純潔の律法に従い、結婚を神聖に保っています。」コロンビア・ボゴタ・エルドラドステークのカルロス・ベガ会長はそう語ります。

「わたしたちは家族を強めることを重点に働いています。夫と妻に互いに愛し合うように、両親に子供たちを愛するようにと話しています。そのときに家族の宣言を教材に使うことが多いですね。」そう話してくれたのはコロンビア・ボゴタ・グラナダステークのエドガル・J・ゴメス会長です。

ラテンアメリカ家族歴史サポートサービスのマネージャーを務めるハビエル・トボンは何代にもわたる自分の家族歴史をまとめ、今は人に家族歴史を探求する方法を教えています。「わたしたちがしていることはゲリラとはまったく逆ですね。ゲリラは家族を破壊しますが、わたしたちは家族を結び合わせているんですから。」

会員の定着と活発化 コロンビアにおけるバプテスマ率は高く、しかも、教会の出席者数もバプテスマ数を上回る速さで増加しています。「これは活発化と定着の成果です」とコスタ長老は説明します。このように成功している理由の一つに、新会員が受ける養いにあります。バプテスマと確認を受けるとすぐ、彼らは無料で1冊の『リアホナ』を受け取ります。新しい家族にはそのほかに、個人あての歓迎の手紙とともに、家族に関する宣言、『生けるキリスト』『若人の強さのために』などの基本的な資料が入った箱が渡されます。その箱にはほかに、神殿と家族歴史作成用の資料と情報の中から選んだものが収められています。資料の使い方を教えるのは、その新会員を担当するホームティーチャーや訪問教師、ワードや支部の指導者です。指導者たちは新しい改宗者の成長を確かめながら、神殿に備えるのを助けます。

会員が確実に養いを受けられるように、あちこちのステークで教師改善集会を開いています。「わたしたちは、教師に自分の考えではなく、主の教科課程を使うように勧めています。また、幹部の兄弟たちに従う偉大な指導者を育てています。わたしたちがステーク会長会に信頼を置いていることを示すと、彼らからそれほど電話がかかってくるなくなります。鍵と力と権能を有し、靈感を受ける権利を持っているのは自分自身だということが分かってくるからです。」コスタ長老はそう語ります。



希望の光を放射する灯台

ほかの多くの宗教に属する人たちが、コロンビアの国旗を掲げている神殿の大きな影響力を認め、コロンビアのアルバロ・ウリベ・ベレス大統領は神殿を「我が街、我が国の偉大な宝」と呼んでいます。近隣の住民も、神殿の近くに住めるのは幸せだと語り、多くの人が神殿にふさわしいように家を美しく保っています。

「街全体が良くなりました。街も家庭もいっそう穏やかになりました。暴力はまだなくなりますが、それほど強くは感じません。暴力的な氣勢が沈静してきているかのようです。預言者が言ったとおりになっています。」コロンビア・ボゴタ・エルドラドステークのカルロス・ベガ会長はそう言います。

コロンビア・ボゴタ・シウダッド・ハルディンステークのカルロス・オスピナ会長は次のように言っています。「神殿は、教会の会員であることの意味をもっと深く感じさせてくれます。神殿が知られているので、福音についても話しやすいです。」

「神殿は灯台と似ています。」ロベルト・ルビオ神殿長はそう言います。神殿長と二人の副神殿長、それにほとんどの神殿奉仕者がコロンビア人です。「神殿を見ると希望が持てます。もちろん苦難も難しい課題もありますが、主がその荷を軽くしてください。わたしたちは紛争と罪悪に取り囲まれているかもしれませんが、でも、神殿があるので安心していられます。家族の愛と主の愛を享受することができます。これ以上望むことなど、何もありません。」

忠実であることの成果を楽しむ 1977年にはスペンサー・W・キンボール大管長が、1996年にはゴードン・B・ヒンクレー大管長が訪問し、その後ヒンクレー大管長は、再度1999年に神殿を奉獻するために訪問しています。会員たちは預言者の訪問について思いを巡らして授けられた約束を思い出し、教会の発展が預言の成就であることを知るので、1960年代の中ごろに小規模で始まった教会ですが、現在コロンビアの会員数は14万5,000人に達しようとしています。4つの伝道部に800人近い専任宣教師がおり、その全員がコロンビアか周辺のラテンアメリカ諸国出身者です。末日聖徒の集会所、家族歴史センター、インスティテュート、宣教師訓練センター、そして、



神殿への旅

田舎を通り抜けるのは危険なために飛行機を使う人もいますが、ほとんどの人にとって陸路に行く以外に方法はありません。その際、公共交通機関を利用する場合と、ステークでチャーターしたバスを連ねて行く場合があります。

ロベルト・ルビオ神殿長は言います。「神殿に来る人のほとんどが金銭的に貧しい人たちです。でも、霊的にはとても裕福な人ばかりです。先日ペレイラからバスで来た一人の女性は80歳を過ぎていて、しかも、非常に貧しい人でした。その姉妹は新聞売りをし、集めた空き瓶を売って神殿に来ました。そのような人は大勢います。」

最近、アルパロ・エミロとマリツァ・アリサは1歳から10歳までの5人の子供を神殿に連れて行きました。一家はまず40分歩いてバスに乗り、2時間かけてバルボサまで行きました。そこでコロンビア・ドゥイタマ地方部のイスマエル・カレーニョ部長をリーダーとする会員たちと合流して再びバスに乗り込みました。約5時間後に神殿に着き、家族として結び固められたのです。

カルタヘナの会員たち(上)も先ごろ2台のバスで神殿に行きました。片道20時間の旅でした。その中に長老定員会会長のジョニー・サン・ホアンと若い女性の会長を務めている妻のエベルリデス、それに3人の子供たちがいました。時間をかけて4代の家族歴史を完成させていたため、12歳の娘エスタファニアは先祖のためにバプテスマを受け、ジョニーとエベルリデスがエンダウメントと結び固めを受けました。

神殿などの建物が数多く見られるようになりました。

カリに住むエルネスト・エルナンデスのような教会歴史家は記録や日記、写真を使って主要な出来事をまとめています。また、いろいろな物語が会員たちの人生と心にも記録されています。ボゴタに住むファビオ・ボオルケスとルイサ・エルナンダ・ボオルケスが最近神殿の儀式を受けたとき、儀式執行者がエクトル・カノ、マリナ・カノ夫妻であることを知ってへりくだる思いでした。その二人は、ファビオが以前ペレイラで宣教師だったときにバプテスマを施した夫婦だったのです。カノ夫妻は神殿宣教師として奉仕しており、将来もさらに専任で召しを果たすことを計画しています。

バランキラではフリアオ家の祖父母ロベルトとファビオラが家族を家に集めます。孫たちは両親や祖父母のひざに乗って、フリアオ兄弟姉妹が1975年にバプテスマを受けたことや、1986年に神殿で結び固められたときのことなど、いろいろと思い出を語るのを皆で聞くのです。ファビオラはこれまですべての補助組織で奉仕してきました。そして今はワードの初等協会の会長です。一方、ロベルトもたくさんの神権の召しを務めたときの経験を語り、大切にしている一つの記念の品を孫たちに見せます。それは、ボゴタ神殿の鍬入れ式にロベルトが使ったシャベルです。

息子の一人クリスチャンは、妻が最初の子供を妊娠するまでバプテスマを受けませんでした。ところが、二人は突然福音について知りたくなったのです。二人はバプテスマを受け、後に神殿で結び固められました。あるとき、クリスチャンは父親とともに、伝道部の副部長を務めるという経験をしました。「わたしは父のようにになりたいと思うようになっていました。父が人生でいちばん大切な原則を教えてくれたことが分かったのです。父から受け継いだものを子供たちにも伝えたいと願っています」とクリスチャンは語ります。

善き市民となる

会員たちの自立に伴って、地域社会に変化が起きつつあります。善い隣人としての役割を果たし、人道支援活動に力を尽くし、愛国心あふれる会員のいる教会に対する理解はますます深まっています。

地域社会の一員となる コロンビア・メデリン・ベレンステークの扶助協会は、料理や手芸、美術、工芸のクラスを開いています。教会員でない人も大勢参加して市場に出せるものを作る技術を身に付け、教会の惜しみない親切に感謝しています。

メデリン・ベレンステークの会長を務める医師、エドゥアルド・パストラーナはテレビのインタビューで末日聖徒の価値観を明確に説明しました。こう語っています。「メデリンが世界中で最も暴力のはびこる街であると書かれているのを読んだことがあります。実際医師として働いていると、多くの人がこの国の社会的、経済的な状況に恐怖感を抱き、絶望的になっているのが分かります。しかし、福音があるおかげで、妻子もわたしも家庭の中は穏やかだと感じています。そして、患者の皆さんとも、その平安を分かち合えるよう努力しています。」

ほかにも様々な職業に就いているコロンビアの教会員が社会に貢献しています。ブカラマンガでは、弁護士のエクトール・エリアス・アリサがサンタンデルの知事の総務官

として働く傍ら、きょうだいのセルジオとともにステーキの聖歌隊を指導し、歌っています。聖歌隊はその地域でクリスマスコンサートを開いているのです。姉妹のパトリシアは判事です。また母親のオルガは教師を退職し、子供たちの仕事の同僚や友人のために定期的に楽しく興味深い家庭の夕べを開いています。

大統領夫妻とともに働く 教会員は、車いすや補聴器、学校用のいすを寄贈したり、目の手術を手配したりと、リナ・マリア・モレノ・デ・ウリベ共和国大統領夫人とともに何度も人道支援活動に携わってきました。大統領夫人は寄贈品の分配を支援するために、末日聖徒の礼拝堂で行われた集会に何度も出席しています。そのような集会では祈りがささげられ、ステーキ聖歌隊が賛美歌を歌います。政府指



パストラーナ家族

教会の会員たちは地域社会の中で変化を起こしています。



補聴器を受け取る少女と言葉を交わす
コロンビア大統領夫人(中央)



コスタ長老とガルシア長老に面会する
コロンビア大統領(中央)

導者、外交官、報道関係者などを含め、多くの人が参加しました。

寄贈品を受け取る人のほとんどは教会員ではありません。「新しい机を受け取る学校を代表して来たある生徒に『どのように恩返しをしたらいいのでしょうか』と聞かれたので、わたしは『善い市民になってください、正直であって、生徒たちの良い指

導者になってください』と答えました。すると、彼は『はい、そうします』と言ってくれました。」コスタ長老はそう話しています。

大統領夫人は、夫であるアルバロ・ウリベ・ベレス大統領に地域会長会らが面会できるように手配してくれました。面会は2003年11月7日に大統領官邸で行われました。ウリベ大統領は言いました。「皆様の活動のすべてに対し、善い市民であることに対して大変感謝しています。政府を代表して、支持、承認、感謝をお伝えします。」

「ウリベ大統領は善良で正直で、家族思いの方です」とコスタ長老は言います。

教会が政治的に中立な立場を守っていることで、「教会の目的は政治的なものではなく、宗教的、人道的なものであることは明らかです。車いすの必要な人に対して、その人の政治的、宗教的な好みを問うことはしません。また、わたしたちは会員にこの国の善い市民になるように、法律を尊重し、投票し、建設的な貢献をするようにと教えています。」コスタ長老はそう語ります。

また、ロベルト・ガルシア長老も言います。「わたしたちがこの国の変革のためにできることをすべて果たすなら、コロンビアは変わりますと、生ける預言者は約束してくれました。それが実現するようにわたしたちは懸命

に働き、祈っています。そして、この国の指導者たちのためにも祈っています。」

コロンビアの会員たちは、聖なる場所に立っています。彼らの家庭、神殿、礼拝堂、職場、学校、地域社会が聖なる場所です。生ける預言者に従い、家族を強め、生活必需品を人と分かち合うとき、会員たちは傷ついた国を立て直し、祝福する力となるのです。■

羊が 売られた日

ジュリー・A・マスターズ

わ たしたち家族がネバダ州ローガンデルに引っ越したのは8年以上前のことです。以来ずっとクラーク郡の畜産品評会に参加してきました。品評会は毎年4月の復活祭が間近に迫るころに催されます。子供たちは自分で育てた豚や牛、羊を品評会に出すことができます。家畜は木曜日に品定めされ、土曜日に競りにかけられます。

競りはいつも心配でした。子供たちの育てた家畜が1匹でも売れ残ったらどうしようと気がかりだからです。たいていの親は家畜の買い手を事前に手配しておきます。しかし、たとえ買い手が決まっていたとしても、競りでは自分の子供の順番が来るまで延々と待たなければなりません。

3年前の競りのとき、ある経験をしました。それは、これまでで最も感動的な出来事の一つでした。わたしたちはその日の大半を観覧席で過ごしていました。競り人の掛け声や、人々のざわめき、様々な動物の鳴き声が聞こえていました。すると突然それらの騒音に混じって、冷たい雨が建物を打つ音が聞こえ始めたのです。

間もなく、品評会に参加している親や親戚に



「羊の値段にしては随分高いわ」と思いました。するとまさに驚くべきことが起こったのです。

加えて、競りとは関係のない多くの人が、雨を避けるために家畜展示会場に入ってきました。競りが行われているのにかなり驚いた様子でした。大半は大都市ラスベガスからの観光客で、家畜の競りなど経験したこともない人たちでした。やがて競りを楽しみ始めたようで、中には出された家畜に値を付けようとする人もいました。もちろん競り人が競り値は1ポンド当たりの価格であることを説明した後は、競りはかなり穏やかになりました。

息子たちが育てた豚が競りにかけられました。売れたときにはほっとしたのを覚えています。もう考えることといえば、家に帰ることしかありません。人込みや、喧騒、動物のにおいから早く解放されたかったのです。外はまだ雨が降っていたので、義理の弟が車を取って来るまで会場内で待つことにしました。羊の競りが始まって競り人の声が耳に入ってきました。

幼い女の子が羊を連れて登場し、競りが始まりました。実際の金額は忘れましたが、「羊の値段にしては随分高いわ」と思ったことを覚えています。するとまさに驚くべきことが起こりました。羊を競り落とした人が、少女をもう

一度競りに参加させるために、代金だけを支払ってその羊を少女に返すというのです。また、本来ならこの会場に来ているはずの少女の父親が、実は病院に入院中であることも、競り人の口から説明されました。父親は癌で、見通しはあまりよくありませんでした。その家族は医療保険に入っておらず、父親が唯一の稼ぎ手でした。

わたしは次に起こったことを決して忘れないでしょう。

また競りが始まると、その羊は聞いたこともないような高値で落札されました。またもやその羊は少女の手に返されて、もう一度売られることになりました。そのとき、弟が雨風の中をずぶぬれになって戻って来たのですが、わたしはその場を動くことができませんでした。信じられないことが起こっていると説明しながら、涙があふれて止まりませんでした。

羊は何度も競りにかけられました。その多くは都市から来た人々でしたが、羊を競り落としてはその家族に寄付をしたのです。

わたしは驚きのあまり立ち尽くしていました。そして別の小羊のことが頭から離れませんでした。一つの家族を助けるために何度も売られた羊ではなく、すべての神の子供のために御自身を犠牲としてささげられた小羊です。間近に迫った復活祭にふさわしい出来事のように思えました。その日、聖霊は、周りの人のために犠牲を払うことの尊さと、地域社会の果たす大切な役割を証してくださいました。

残念ながら、少女の父親は助かりませんでした。その家族は後にわたしたちのワードに転入

し、夫を亡くした母親は、日曜の扶助協会で証をしました。彼女は、病院で死期の迫る夫に付き添っていたときに、競りの話を聞いたそうです。だれが寄付してくれたのか、何人の人が寄付してくれたのか、彼女には分かりませんでした。しかし、自分たちを気遣い、助けてくれた人々への感謝の気持ちを語る彼女の目には感動の涙があふれていました。嵐に見舞われたクラーク郡の畜産品評会の日に、自分たち家族に示された、あふれるばかりの愛と支援に驚嘆したのです。あの羊が売られた日に。■

ジュリー・A・マスターズは、ネバダ州ローガンデルステーキ、ローガンデル第1ワードの会員です。



神殿を見るのが 好きです

アダム・C・オルソン

教会機関誌

16歳のヒロヌイ・ジョンストンと15歳の妹メリラニは、タヒチにあるパペーテ神殿によくやってきました。

死者のためのバプテスマを受けに来るのではありません。それは年に2、3度のことです。神殿の中にも入りません。神殿の敷地の中で、庭仕事や何か奉仕活動をするのでもなく、ただ腰を下ろしたり辺りを散歩したりしているのですが、いつも神殿を眺めています。

「わたしは神殿を見るのが好きです」とメリラニは言います。「ここにはたくさんの良い思い出があるのです。」

ヒロヌイとメリラニが神殿の敷地にやってくるのは、特別な気持ちになるからです。そこは世俗的な事柄から逃れられる場所なのです。

「住んでいる場所は悪くはないのですが、悪い子供たちもいます」とヒロヌイは言います。「だからぼくたちはここで時間を過ごすのです。神殿の敷地にいると、とても落ち着くのです。」

二人の家族は時々全員でやって来て、家庭の夕べの活動をしたり、ただ一緒に過ごしたりしています。

「時々、けんかをした後で仲直りをするためにここへ来ます」とヒロヌイは言います。でも神殿に来ないときでも、神殿はジョンストン家族のみんなの生活に欠かせないものなのです。

「家中のどの部屋にも神殿の写真があると思います」とヒロヌイは言います。「美しい写真です。神殿の写真のおかげで、家族が永遠に一緒にいられることを思い出します。家族みんなが、写真を眺めて穏やかな気持ちになります。」



祝福された世代

ヒロヌイとメリラニは、神殿がなかったころのタヒチの様子を知らない最初の世代の会員です。タヒチに神殿ができたのは、今から20年以上も前になります。

そのような世代の若人は、神殿のありがたさを簡単に忘れてしまうかもしれません。けれどもタヒチには、神殿を大切にし、神殿に目を向けている若い聖徒が大勢います。神殿は若人の生活に欠かせないものとなっています。

「神殿を見ると、中へ入りたくなります」と言うのは、タヒチ・パエアステーク、ティアパワードに所属する、12歳のワウオナ・アウラアです。「みんな神殿が大好きです。」

タヒチの若い世代の聖徒にとって、なぜ神殿がそれほど重要なのでしょうか。ワウオナの所属するワードの青少年と話してみて、その答えがはっきり分かりました。若い男性も若い女性も神殿の祝福を理解しています。神殿に参入するふさわしさを維持すれば生活の中で祝福が得られること、神殿の儀式によって先祖の救いが可能になること、神殿の聖約には家族を永遠に結び合わせる力があることを理解しているのです。

「ふさわしくなければ参入できないことを知っていると、神殿

に行けると自覚できるような生活をするようになります。」こう言うのは、タヒチ神殿が奉献されるわずか2、3か月前に生まれたマルビア・タウイラです。「神殿は正しく生活する助けになります。」

「神殿は天の御父のみもとに戻れるよう霊的に備えさせてくれます」と言うのは、14歳のテナヤ・アウラアです。

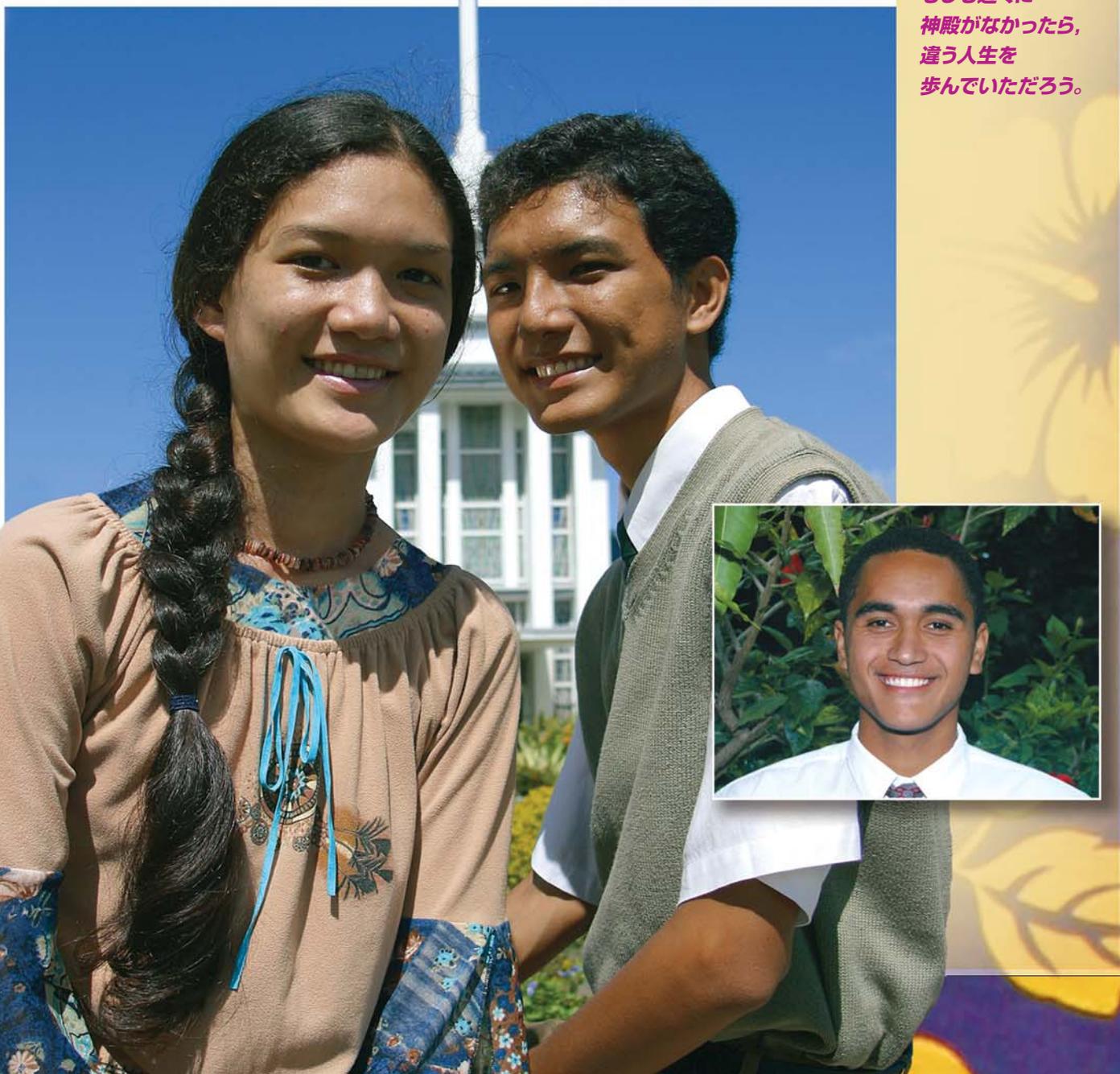
死者のためのバプテスマは、こうした青少年にとって特別なものです。教会の青少年が現在の年齢で携われる神殿の儀式は、それだけ

しかありません。この若い男性、女性は、死者のためのバプテスマは自分だけの祝福ではないと考えています。

「死者のためのバプテスマを受けると、救いの儀式を受けられるように先祖を助けることができます」と言うのは、18歳のマタイティニ・アウラアです。「これほど近くに神殿があるのは大きな祝福です。」

タヒチ・パエアステークの青少年は、自分のエンダウメントを受けるために

**メリラニ・
ジョンストン**
(下の写真の左)と
**ヒロヌイ・
ジョンストン**
(下の写真の右)、
ハイファラ・タウイラ
(下の挿入写真)、
ワウオナ・アウラア
(前ページ)は、
もしも近くに
神殿がなかったら、
違う人生を
歩んでいただろう。





「人が神殿へ行きたい
と思う理由は様々で
す。外観を見ただけ
でも、神殿には深遠で
霊的な目的があること
を感じますが、その壁
の内側においては、よ

りいっそうそれが明確になります。神殿の
入り口には、『聖きを主に捧ぐ』という賛辞
を目にすることができます。奉献された神
殿に入るといことは、主の宮へ入るとい
うことなのです。」

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー
『聖き宮居』『聖徒の道』1992年6月号、14参照

神殿に行ける日を心待ちにしています。

伝道に行くことを楽しみにしている
18歳のヘイファラ・タウイラにとって、
その日はそう遠くはありません。自分
のエンダウメントを受けた人たちの証
を聞いて育ったので、ほんとうに楽し
みにしているとヘイファラは言います。
「エンダウメントを受けている人たちは
教会ですごく立派に見えるし、神殿に
ついての証も強いです。」

タヒチの青少年は、神殿に対する愛
を抱いているだけでなく、神殿の聖約
を通して家族と永遠にともにいられる
という共通の希望も持っています。

「神殿は家族を結びつけてくれます」と言うのは12歳のマ
ヘアリイ・タウイラです。「わたしたちは永遠に一緒にいるこ
とができるのです。」

幾世代をも祝福する

神殿の祝福は、家族を幾世代にもわたって結びつけます。神
殿を愛する心もまた、世代から世代へと受け継がれていきます。

「両親が神殿に行くのをよく見えています」とヒロヌイは言
います。「神殿に行くために両親がふさわしく生活しているの
が分かります。両親が神殿に参入することで、ぼくたちが
どれほど祝福を受けているかも。だから進んで両親に
従うのです。」

ジョンストン家の両親が最
初に抱いた神殿
への愛は、ヒロヌ
イとメリラニに受
け継がれました。
でもそれで終わり
ではありません。
その愛は彼らの
行いを通して次の
世代へと受け継
がれるのです。

「いつかわたし
も子供を持ちたい
です」とメリラニは
言います。「神殿
は主の宮であり、



こうした若い男性や
若い女性が成長し
神殿で奉仕する
ようになると、
神殿の祝福は
先祖だけでなく
未来の家族にも
及びます。

忠実であるなら神殿を通して永遠に家
族一緒にいることができると子供たちに
教えてあげたいのです。」

神殿の祝福は、過去にも未来にも及
びます。今、この若い世代は自分のた
めに祝福を受けているところですが、
やがて成長して先祖のための業を行
えば、その祝福は過去に及びます。ま
た彼らが次の世代を育て始めるとき、
その祝福は未来へと続くのです。

「この国に主の宮を建てることに
よって、主はほんとうの祝福を授けて
くださいました」とメリラニは言います。
「しかし最も大きな祝福は、神殿の儀
式を通して家族と先祖が結び固められて、天の御父と再び
ともに住めるようになることです。わたしはその祝福のた
めなら何でもしようと思ひます。」■

日曜日を神聖に保つ

ルイス・アリエル・ホセ

わたしは17歳のころ伝道に出る準備をしていましたが、当時していた仕事は時々日曜にも働かなければならないことがありました。ある聖餐会^{せいさん}で、支部長が安息日を神聖に保つことによる祝福について話しました。

わたしは導きを求めて神に祈りました。1週間後、仕事を辞める決心をしました。天の御父の祝福を受けたかったです。数日すると、それまでの倍の収入が得られる仕事の話を持ちかけられました。しかも日曜日に働かなくてよいのです。

そのときわたしは安息日を神聖に保つことの重要性、そしてすべての律法にはそれに従うことによって得られる祝福があることを理解しました(教義と聖約130:21参照)。■

ルイス・アリエル・ホセはドミニカ共和国ラ・ベガステーキ、コトウイ第1支部の会員です。



月曜日が 楽しみ

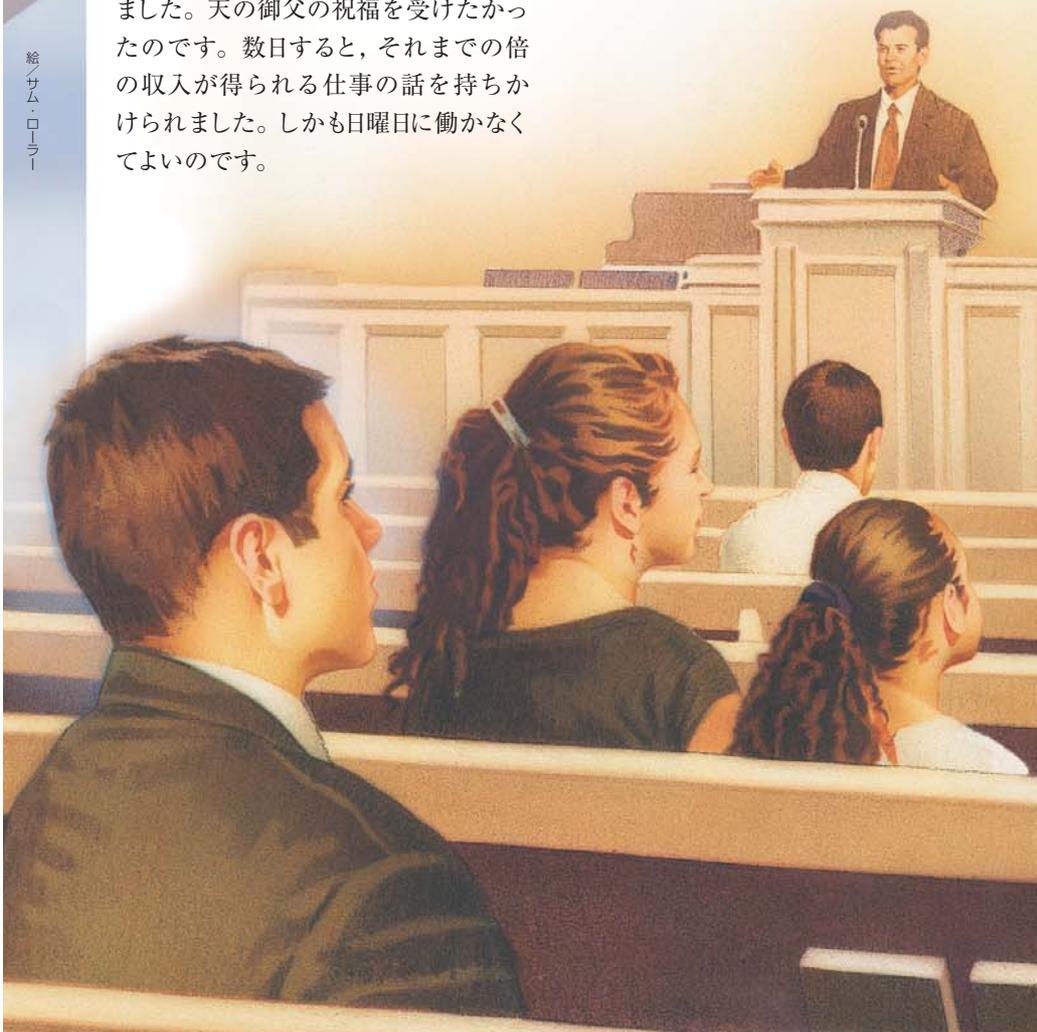
オレアジュバ・オヒワブコラ

わたしの家族が家庭の夕べを始めたころ、退屈だと思いました。父は教会員ではありません。わたしはいちばん年上の子供だったので、母が教えることは聞いていましたが、積極的に参加しているわけではありませんでした。そんなとき、何人かの友達の家の家庭の夕べに参加しました。どの家族も、たとえ父親が会員でなくても、交わり、話し合い、ゲームを楽しんでいました。

わたしは家庭の夕べにもっと熱心に、真剣に取り組むことに決めました。レッスンの責任を受けたら、必ずよく勉強し、皆でできる活動を計画するようにしました。ここ数か月間、うまくいっています。主はわたしたち家族を祝福してくださっています。そして家族皆が、すばらしい家庭の夕べができる月曜日が来るのを楽しみにしています。■

オレアジュバ・オヒワブコラはナイジェリア・ラゴスステーキ、スルレワードの会員です。

絵／サム・ローラー





だれにでも当てはまる教え

『リアホナ』が与えられていることと、だれにでも当てはまる記事が掲載されていることに感謝しています。わたしは教師で、学校では宗教について教えられませんが、幾つかの記事を授業で使うことができました。

2003年2月号のジェームズ・E・タルメージ長老による「愚かな蜂」という記事は、大人たちが生徒を導こうとするのは助けたいからであって、決して自由を制限しようとしているのではないことを教えるうえで助けになりました。『リアホナ』にあるたとえや物語を使って教えた授業を通して、生徒はわたしの教えていることが真実であるとはっきりと理解できました。

ウクライナ・オデッサ・ツェントラルニー地方部
ミコライフ・ツェントラルニー支部
アレクセイ・ドブロボロスキー

重荷から解放される

『リアホナ』2002年11月号に掲載された、リチャード・G・スコット長老の「重荷から解放される」という記事に非常に感謝しています。かつてわたしは



アルマと同じように、自分の罪にさいなまれていました。しかしこの記事のおかげで、わたしは監督に告白し、主の赦しを受けようと決意することができました。そしてアルマと同じように、かつて受けた苦痛の激しさに勝るほどの美しい喜びに満たされました(アルマ36:16-21参照)。

匿名

独りでする家庭の夕べ

『リアホナ』2003年3月号に掲載された、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長の「家庭の夕べ」という記事を読んであることが分かりました。たとえ家族の中で唯一の教会員であっても、家庭の夕べを開くことができるのです。わたしは毎週特別な時間を取って、聖文を学習し、『リアホナ』を通じて現代の預言者の教えを学び、賛美歌を歌うようになりました。そして神の息子、地上の両親の息子として、もっと善い人間になるにはどうすればよいか深く考えるようになったのです。ヒンクレイ大管長のメッセージは、より良い人生を送る助けとなっています。

アルゼンチン・サルタ西ステーク
ソリスピサロワード
セルジオ・アドリアン・ロペス

信仰を増す

『リアホナ』はわたしの人生を変えてくれました。靈感あふれる記事を読んでじっくり考えるとき、信仰は増し、天の御父に対する愛が深まります。そして終わりまで堪え忍ぼうという気持ちちがわき出てくるのです。

ホンジュラス・サン・ペドロ・スラステーク
ヤルディン・デル・バジェ支部
アレハンドロ・バララーガ



大会説教を 聞く

第175回
年次総大会の音声は
www.lds.org

において
30以上の言語で
聞くことができます。
今からカレンダーの
4月2日と3日に印を
付けておき、大会説教を
聞く時間を取りましょう。



左——写真/マシュー・ライアー。
上——写真/クレーグ・ダイヤモンド、写真はイメージです。
最上——写真/ウエルデン・C・アンダーセン



表紙——コロンビア・ドゥイタマ地方部バルボサ支部の
イスマエル・カレーニョ支部長, レイディ夫人,
2歳になる息子のフェリペ。コロンビア・ボゴタ神殿にて。
上——ヘノベバ・サンチェス(右)は,
メデリンにおける教会の開拓者であった。
亡くなった夫, ルイス・アンヘルとともに
1967年にバプテスマを受けた。左は息子のダリオとダリラ夫人。
左上——カルタヘナの初等協会の子供たちは,
コロンビアの教会の未来を表している。
右上——カルタヘナの現在のステーク会長たち,
ハイロ・バルディ(左)とラファエル・ウリョケ。
「コロンビアの聖徒たち——強さの模範」34ページ参照